

U2-2026-

専門多肢

試験問題

注意事項

1. 問題は **60 題(63 ページ)** あります。受験する区分に応じ、次のとおり解答してください。

○ **矯正心理専門職区分**

問題は必須問題 20 題(No. 1 ~No.20)と選択問題 40 題(No.21 ~No.60)に分かれています。選択問題については**任意の 20 題**を選択の上、必須問題と合計して **40 題**を解答してください。

なお、選択問題については、20 題を超えて解答しても超えた分については採点されません。

○ **法務教官区分、保護観察官区分**

No.21~No.60 の全ての問題(**40 題**)を解答してください。

No. 1~No.20 の問題には解答しないでください。

2. 解答時間は **2 時間 20 分**です。
3. この問題集は、本試験種目終了後に持ち帰りができます。
4. 本試験種目の途中で退室する場合は、退室時の問題集の持ち帰りはできませんが、希望する方には後ほど渡します。別途試験官の指示に従ってください。なお、試験時間中に、この問題集を切り取ったり、転記したりしないでください。
5. 下欄に受験番号等を記入してください。

第1次試験地	試験の区分	受験番号	氏 名
--------	-------	------	-----

指示があるまで中を開いてはいけません。

No. 1～No. 20

(矯正心理専門職区分)

No. 1～No. 20 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 1～No. 20 は矯正心理専門職区分の必須問題です。これらの問題については解答しないでください。

【No. 1】 聴覚に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 音の知覚の基本的属性は高さ、大きさ、音色である。音の高さには周波数が強く影響し、人間が音として認識できる周波数の範囲は 20～200 Hz 程度である。音の大きさは、音波の振幅に強く影響を受ける一方で、周波数による影響は受けない。音色は、音の大きさや高さでは表せない音の主観的な知覚特性を総称し、粗さや鋭さ、明るさや重さなどの印象も含まれ、音波の波形が関係する。
2. 一つの音の存在が他の音を聞こえにくくする現象を聴覚マスキングと呼び、マスキングされた音を聞き取るには、強度を大きくする必要がある。また、高い音が低い音をマスキングしやすく、音同士の周波数が遠いほど、マスキング量は大きくなりやすい。マスキングは、音が同時に存在する場合だけでなく、音同士に時間のずれがあった場合にも生じる。
3. 聴覚刺激の音源の位置や方向を把握することを音源定位と呼び、上下方向の方が左右方向よりも定位が容易である。また、音が接近したり遠ざかったりすると、その音の高さが変化しているように聞こえる現象をドップラー効果と呼び、遠くから近づいてくる音は低く聞こえ、遠ざかる音は高く聞こえる。
4. 音声言語の一部が取り除かれ、取り除かれた部分が雑音で置き換えられた場合に、実際には存在しない音声聞き手によって補完されて、元の音声を認知できる現象を音韻修復(音素修復)と呼ぶ。この現象が示すように、聴覚では、音に含まれる情報の知覚的なボトムアップ処理とともに、知識や経験などを用いたトップダウン処理も行われる。
5. 耳に入った音の情報は、外耳、中耳、内耳を経て脳へ伝わる。中耳には蝸牛があり、蝸牛の中にある基底膜の上には、聴覚の受容器である有毛細胞が並んでいる。蝸牛の中は空洞であり、音の振動が伝わると蝸牛内の空気が振動し、有毛細胞が反応する。これにより、音の振動が電気的信号に変換され、脳にある聴覚中枢に伝えられる。

【No. 2】 記憶に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 意味記憶の概念的表象に関するモデルとして、R. C. アトキンソンと R. M. シフリンによる活性化拡散モデルがある。このモデルでは、各概念がそれぞれ一つのノードで表され、それぞれの概念ノードは、概念の包含関係に基づいて階層的に体制化されていると考えられている。また、このモデルは活性化の拡散という考え方を取り入れており、ある概念が処理されたときには、その概念自体が活性化されるだけでなく、その概念と結び付いた意味的に関連のある概念に対しても活性化が広がっていくと考えられている。
2. 短期記憶は容量に限界があるだけでなく、保持時間にも限界がある。この点については、自由再生法を用いた実験で確かめられており、単語の提示された系列位置によって再生率に差異が生じることが示されている。通常は、初頭部と中央部の単語の再生率が高く、終末部は低くなることが示されているが、リスト提示後 10 秒から 30 秒程度の遅延時間を挿入し、その後に再生を求めると、リストの終末部及び中央部の再生率は影響を受けないが、初頭部の再生率は低下し、初頭性効果が消失する。
3. 長期記憶に保持されている記憶は、宣言的記憶と作動記憶に区分することができる。宣言的記憶は言語的に記述することができる事実に関する記憶のことであり、作動記憶は一連の手続に関する記憶のことである。宣言的記憶は、意味記憶とエピソード記憶に区分することができる。意味記憶は、時間的・空間的文脈に位置付けることのできる個人的な出来事に関する記憶で、エピソード記憶は一般的な知識としての記憶である。
4. 未来の出来事を展望し、それに備えるための記憶を自伝的記憶と呼ぶ。人は未来のプランを立てたととしても、うっかり忘れてしまうことがある。このような「し忘れ」現象を調べた研究では、「し忘れ」が生じやすい行為と生じにくい行為があることが明らかにされている。「し忘れ」が生じやすいのは「非習慣的で特別な行為」であり、「し忘れ」が生じにくいのは「習慣化されている行為」や「特別ではない行為」であることが示されている。
5. 目撃証言に関する E. F. ロフタスの実験では、目撃した出来事と一致する事後情報が与えられた群に比べて、誤誘導情報が与えられた群は、再認テストの正答率が低くなった。多くの実験結果を総合すると、誤誘導情報による記憶のゆがみは、特に、①誤誘導情報が出来事にとってあまり重要でない、末梢的で細部に関わるものである場合、②出来事の目撃から時間が経過し、記憶が不鮮明になった後に誤誘導情報が与えられた場合、③実験参加者が故意に誤誘導情報が与えられる可能性に気付かず、誤誘導情報を疑う理由がない場合等に生じやすいとされている。

【No. 3】 学習に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. 技能習得における練習には、学習内容に関する分類として、全習法と分習法、両者を組み合わせた累進的分習法がある。複雑で難しい技能練習の場合は、要素を増やしながら学習する累進的分習法よりも、全習法を用いることが望ましい。また、学習終了後、一定期間を経過後にパフォーマンスが向上することを、スリーパー効果と呼ぶ。

イ. オペラント条件づけにおける嫌悪条件づけの例として、味覚嫌悪学習があり、これは、20世紀半ばに J. ガルシアによって発見されたことにちなんで、ガルシア効果と呼ばれている。一般に、条件づけには連合選択性があるとされているが、味覚嫌悪学習は強固であるため、味覚と毒物による不快感の条件づけだけでなく、味覚と電撃も条件づけられやすいことが明らかになっている。

ウ. E. C. トールマンらは、ネズミに複数の T 迷路をつなぎ合わせた多単位型迷路を報酬なしで探索させたところ、報酬有りの統制群に比べて遂行成績は伸びなかったが、その後、試行の途中で報酬を導入した途端に遂行が急激に改善したことから、潜在学習の存在を示した。この実験結果は、強化が、学習の成立よりも反応の遂行に影響することを示唆し、C. L. ハルの行動理論と対立するものであった。

エ. E. L. ソーンダイクは、問題箱と呼ばれる装置に空腹のネコを入れて、ネコが問題箱から脱出する時間を測定する試行錯誤学習の実験を行った。実験では、ネコは、初めのうちは脱出までに時間が掛かるが、試行を繰り返すにつれて、次第に失敗につながる反応が除かれ、成功につながる反応だけが確実に生じるようになり、脱出までの時間も短くなった。ソーンダイクは、このことから効果の法則を唱えた。

1. ア
2. イ
3. ア、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 4】 感情の制御に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. 気分の回復に役立つ方略として、ディストラクションと認知的再評価がある。ディストラクションは、不快感情から無関係な対象へ注意をそらす行為であり、認知的再評価は、不快感情をもたらしたネガティブな事象について、新たな意味を見いだしたり、ポジティブな解釈を加えようとしたりする行為である。

イ. 感情が生じ、意識された後で、それを表出しないように制御する行為を、抑制と呼ぶ。抑制は日常生活でよく行われる感情制御方略であるが、抑制を行うと、交感神経系の興奮は落ち着くものの、ネガティブな感情はむしろ強まるとされている。抑制は、社会生活に悪影響を及ぼす方略であるため、いかなる状況であっても、活用を避けることが望ましいとされている。

ウ. J. J. グロスが提唱したプロセスモデルでは、感情が生起するプロセスに対応して、感情制御を、①注意の方向付け、②認知的変化、③反応調整の全三段階に分類する。また、あらゆる感情制御方略は、このいずれかの段階で実行されるものと考えられており、例えば、マインドフルネスは反応調整の段階で実行される。

エ. 感情的不協和とは、他者の感情状態に伴って、類似した感情を経験することである。対人援助職は感情的不協和を職務上要求される感情労働であり、感情的不協和は、極度の身体疲労や感情の枯渇を示す全般不安症を引き起こす要因の一つであると考えられている。

1. ア
2. ウ
3. ア、エ
4. イ、ウ
5. イ、エ

【No. 5】 パーソナリティに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 人間はそれぞれ多かれ少なかれ時間的・空間的に一貫した行動傾向のパターンをもっており、これを、一般的に、パーソナリティと呼ぶ。個人のパーソナリティを集団内で比較した場合、その行動傾向は相対的には安定している一方で、個人内でみた場合、時間の経過によって行動傾向は変化し、また、環境によっても表出する行動は異なる。このため、発達を通じてパーソナリティ検査を繰り返し実施した場合、その都度異なる検査得点が得られることも想定される。
2. パーソナリティの特性論とは、一貫して観察される行動傾向(特性)の量的な差異によってパーソナリティを記述する考え方であり、クラスター分析などの統計手法を用いてパーソナリティ特性を抽出する。C. G. ユング、G. W. オルポートなどが特性論の支持者として知られている。
3. パーソナリティの類型論とは、パーソナリティをいくつかの典型的な例に当てはめて分類する考え方である。類型論は、個人の際立った特徴を中心にパーソナリティの全体像を浮かび上がらせることや、個人の特徴を正確かつ精緻に捉えることに適していることから、近年のパーソナリティ検査やパーソナリティ研究における主流の理論になっている。
4. パーソナリティの測定法には、質問紙法、投映法、作業検査法の3種類がある。パーソナリティを測定する作業検査法には、ウィスコンシンカード分類課題やトレイル・メイキング・テストが含まれる。また、特性論に基づくパーソナリティ検査と類型論に基づくパーソナリティ検査は、それぞれ開発方法や解釈方法が異なっており、両方の理論を併せもつパーソナリティ検査は存在しない。
5. パーソナリティ検査の信頼性を示すクロンバックのアルファ係数は、0から1の間の値を取り、0に近づくほど信頼性が高いと解釈される。アルファ係数によって示される信頼性を高める方法には、他の項目と異なる概念を測定している項目を削除する方法や、標本内の分散等を調整するために項目数を減らす方法がある。

【No. 6】 知能に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 集団式知能検査は、個別式知能検査と異なり、短期間に多人数の知能を測定する目的で作られた筆記式検査である。第一次世界大戦時に、米国陸軍の将校や兵士の選別のために作成されたのが始まりであり、この検査には、読み書きができる人を対象としたアルファ検査と、読み書きのできない人を対象としたベータ検査の2種類がある。
2. D. ウェクスラーは、実用的な知能検査を初めて開発した。この知能検査は、子どもを対象に、発達に遅れがあるかどうかを診断するために作成されたものであり、それぞれの年齢に達しないと解けないような検査項目で構成され、年齢段階ごとに順番に並べられている。ウェクスラーは、どの年齢段階の問題まで解けたのかを表す知能指数の概念を提唱し、この検査に採用した。
3. 知能への遺伝と環境の影響を調べた双生児研究では、同じ環境で育った場合、一卵性双生児間よりも二卵性双生児間で、知能の相関が高いことが示されている。また、一卵性双生児では、異なる環境で育った場合と同じ環境で育った場合を比較しても、知能の相関は変わらないことが示されている。
4. 知能の経年的変化を調べた研究では、人間の知能が年々上昇し続けていることが見いだされており、この現象はフリン効果と呼ばれている。語彙力のような知識に関する検査において、特に上昇が顕著である一方で、文化的な影響を受けやすい非言語性の推理能力等に関する検査において、上昇が少ないことが示されている。
5. C. E. スピアマンは、児童を対象に様々な検査を実施し、その得点を主成分分析と呼ばれる統計的手法を用いて分析した。この結果からスピアマンは、知能は、様々な領域に共通した能力である結晶性知能と、個々の領域に特有の能力である流動性知能の二つの要素から構成されていると考えた。この考え方は知能の2因子説と呼ばれている。

【No. 7】 パーソナリティや心身の健康にまつわる検査に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. MMPI は、H. J. アイゼンクによって開発された自己記入式のパーソナリティ検査である。当初は精神医学的鑑別のために作成されたが、パーソナリティの把握へと適用が広がった。MMPI の初版の質問項目は 500 項目以上あり、「心気症尺度」、「ヒステリー尺度」、「精神衰弱尺度」などの多数の臨床尺度から構成されているが、妥当性尺度がなく、受検態度の偏りや回答歪曲を検知しにくいことに留意が必要である。
2. YG 性格検査は、矢田部達郎らが開発した自己記入式のパーソナリティ検査である。神経症的傾向尺度、外向性-内向性尺度に関する項目に加え、虚偽発見尺度に関する項目や矛盾する回答を検出する項目、検査目的を曖昧にするための項目を含めた計 80 項目から成り、回答歪曲にも対応できる点が特徴である。この検査は、J. P. ギルフォードのビッグファイブモデルに基づき、受検者のパーソナリティを A 型から E 型までの五つに分類するという類型論的な理解を行う。
3. CMI(コーネル・メディカル・インデックス)は、米国のコーネル大学の K. ブロードマンらが、元々は軍人向けに開発した自己記入式の健康調査票で、身体面と精神面の両面の自覚症状を把握することを目的とする。最初に身体的項目(目と耳、呼吸器系など)に回答し、その後、精神的項目(不適応、抑うつなど)に移るため、心理的抵抗や回答歪曲が比較的生じにくいとされる。日本版の項目は 200 項目以上あり、男女間で一部項目が異なっている。
4. MAS は、J. A. テイラーによって作成された自己記入式の不安測定検査である。従来の不安測定には、NEO-PI-R や BDI など、パーソナリティ特性としての不安を測定する検査が多く使用されていたが、MAS は、不安を、ふだん常に感じている「特性不安」と、今この瞬間に感じている「状態不安」とに分けて、その両面を測定していることに特徴がある。
5. POMS2 は、米国の復員軍人局心理療法研究所の D. M. マックネアらが、心的外傷後ストレス障害(PTSD)の診断のために開発した検査で、半構造化面接により、他者評価方式で実施される。同検査は、PTSD の中核症状である侵入症状、回避症状、重篤な抑うつ症状の 3 尺度に加え、身体的症状、不安と不眠、社会的活動障害など、精神的健康を広く評価する複数の尺度が設けられており、災害から個別被害まで幅広い種類の PTSD 関連症状を把握できる。

【No. 8】 発達や発達研究に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 身体発育は、一般的には足部から頭部へ、末端部である四肢から体幹へと発達するが、その度合いは身体の各部や器官によって変わってくる。R. E. スキャモンは、身体の諸器官を発育パターンに従い、一般型、生殖型、リンパ型、神経型に分類し、それぞれの変化を発達曲線で示した。それによると、出生後に一般型及び生殖型の発達が急速に進むのに対して、児童期にはリンパ型の急速な発達が、思春期以降には神経型の発達がみられるとされる。
2. 鳥類によくみられるように、ふ化後しばらくの期間は自分では動けず、親鳥からの世話を必要とする状態で生まれてくる性質のことを離巢性と呼ぶ。逆に、ウマやウシなどのように、既に発達を遂げた状態で生まれてくる性質のことを就巢性と呼ぶ。K. ローレンツは、ヒトは、発達した感覚器官をもちながら、運動器官は未成熟な状態で生まれてくる生理的早産であるとし、このことを二次的就巢性と呼んだ。
3. 新生児が示す行動には、内的刺激に対して生じる自動運動と、外的刺激に対して誘発される原始反射がある。原始反射には、生後数週間から数か月間で消失するものと、随意運動などに置き換わっていくものがあり、前者は、口唇部周辺に触れるとそちらに向けて口を開ける吸てつ反射や、足の裏をこすると足の指が扇状に開くモロー反射などが挙げられる。また、後者の随意運動に置き換わっていくものとしては、自発的微笑がある。
4. 乳児の感覚・知覚の研究法として、二つの刺激を提示し、刺激によって注視時間が異なるかどうかを確かめる「選好注視法」、同じ刺激を繰り返し提示し、注視時間が低下した後、別の刺激を提示し、注意が回復するかを確かめる「馴化－脱馴化法」、起こり得る事象と起こり得ない事象を提示した際の注視時間に差があるかを確かめる「期待違反法」などがある。R. L. ファンツは、「選好注視法」を考案して、乳児にも図形パターンの弁別能力があることを示した。
5. 発達心理学研究では、伝統的に「横断的方法」と「縦断的方法」が用いられてきた。「横断的方法」は、同一の対象者を追跡し、年齢的变化を調べるものである一方、「縦断的方法」は、発達のある一時点で、多様な年齢の対象者の現象を調べるものである。そのほかに、「横断的方法」と「縦断的方法」を組み合わせ、生まれた時期やある特定の体験を共有する集団に対して、一定期間追跡する「混合研究法」がある。

【No. 9】 アタッチメント(愛着)にまつわる研究や概念等に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

ア. 「ホスピタリズム(施設病)」の概念を提唱した H. F. ハーロウは、アカゲザルの子を用いた代理母実験を行った。生後間もないうちに親ザルから子ザルを引き離し、子ザルが、①針金製の代理母(温かく包んでくれないが、哺乳瓶あり)と、②布製の代理母(温かく包んでくれるが、哺乳瓶なし)のどちらと長い時間一緒にいるのかを観察した。この実験の結果は、母親が乳児の飢餓状態などの一次的動因を満たすことで、二次的に乳児が母親との絆を獲得するという二次的動因説を支持するものであった。

イ. J. ボウルビィは、施設で長期間生活する子どもに様々な問題が生じる要因として、「母性的養育のはく奪(マターナル・ディプリベーション)」を提唱した。また、この考えをアタッチメントの概念へと発展させ、アタッチメントの標準的な発達プロセスの段階を仮定した。さらに、乳幼児期に築かれるアタッチメントの質が、他者と自分に関する一般化された期待や確信である「内的ワーキングモデル」を形成し、これがその後の対人関係における基本的なひな形として働くとした。

ウ. M. D. S. エインズワースは、アタッチメントの個人差についての研究として、子どもに親との分離・再会などのほどほどのストレスを与え、そのときの反応に注目する実験を行い、子どものアタッチメントタイプを、安定型、回避型、アンビバレント型、無秩序・無方向型の四つに分類した。その上で、各タイプの子どもについて、その親の養育態度の特徴を示しており、例えば、「回避型」の子どもの親は、子どもに対する敏感さが相対的に低く、対応に一貫性を欠くことや応答のタイミングがずれることを明らかにした。

エ. DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)における「反応性アタッチメント症」は、児童と養育者とみなされる大人との間の愛着の欠如又は著しく未発達な愛着を特徴とし、心的外傷及びストレス因関連症群に分類されている。同障害の前身である「反応性愛着障害」は、以前は抑制型と脱抑制型の二つの病型が示されていたが、DSM-5以降、従来の脱抑制型は「脱抑制型対人交流症」として、「反応性アタッチメント症」とは独立した障害として位置付けられている。

1. ア
2. イ
3. ア、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

【No. 10】 仲間関係に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 乳幼児は、生後9か月に達する頃に、他者の視線の方向に自らの注意を向けることができるようになり、生後18か月に達する頃までに、他者が注意を向けている対象へ、正確に自らの注意を向けられるようになる。こうした共同注意の発達、4歳以降に発達する他者の心的状態の理解(心の理論)の萌芽として考えられており、仲間関係構築の基礎となる。
- B. 児童期から思春期にかけての様々な年齢や男女混合の集団で構成され、大人からの逃避傾向をもつ仲間集団をギャング集団と呼び、この集団を形成する時期をギャングエイジと呼ぶ。ギャング集団は、行動を共にする時間は長い、集団としての凝集性は低く、メンバーの構成が流動的になりやすい。
- C. 思春期及び青年期初期の仲間集団は、ピアグループと呼ばれ、中学生頃に多く見られる同性の親密な仲間集団であり、男子に特徴的である。ピアグループは、同質性が高く、排他的になりやすい傾向がある。青年期後半に入ると、異質性を認め合い、排他的でない親密な関係を形成することができるようになり、この時期の仲間集団をチャムグループという。
- D. 仲間との関係は、考え方や行動に影響を与えることがある。E. H. サザーランドは、犯罪行動は、犯罪文化との接触と、その中での他者との相互作用によって学習されるものであり、その学習の主要な部分は、仲間や友人などの親密な集団の中で行われるとし、分化的接触理論を提唱した。

- 1. A
- 2. B
- 3. A、D
- 4. B、C
- 5. C、D

【No. 11】 ステレオタイプや偏見に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 接触仮説では、偏見を低減させるためには、集団同士が対等な立場で、それぞれ独立した目標をもち、協力的な接触を行い、その接触が制度的に保障されていることが必要であるとされている。また、間接接触の一つである拡張接触は、内集団のメンバーが外集団のメンバーと親しい関係にあることを知ることであるが、偏見の低減には、双方の集団メンバーの直接的な接触が必要であるため、このような間接的な接触では、偏見の低減効果はないことが示されている。
2. 事故や事件の被害者にその責任を求め、不当に非難するという現象は、公正世界信念によって説明することができる。公正世界信念は、人は皆、それぞれの価値に見合う結果が得られるようになっているという信念である。人は、公正世界信念を維持しようという動機によって、「悪いことが起きた被害者には、その被害を引き起こす理由がある」と考え、被害者に対して責任を求める傾向があることが示されている。
3. カテゴリー認知の変容による偏見の解消を目指した方略として、以下のものがある。再カテゴリー化とは、対象人物を集団の一員としてではなく、個人の特徴に注意を向け、個人として捉える方略である。交差カテゴリー化とは、内集団・外集団を包含する上位のカテゴリーを強調する方略である。脱カテゴリー化とは、集団間のカテゴリー化を分断する別のカテゴリーの顕現性を高める方略である。
4. ステレオタイプ形成における認知的過程として社会的カテゴリー化がある。一般に、外集団の成員に比べ、自分が所属する内集団の成員の方が、同質性が高く知覚される。他方、他者に対してカテゴリー化がなされると、同じカテゴリーに属する人同士は、実際以上に異なっているかのように知覚される。これはカテゴリー内の対比効果と呼ばれる。
5. 全く関連のない、あるいは関連の弱い二つの事象の間に、実際よりも強い関連があると錯覚することを透明性の錯覚と呼ぶ。例えば、集団成員に少数でも極端に特殊な事例が含まれている場合には、その事例が示す行動傾向や特徴をもつ成員の数が過大に推定され、集団に対する印象にも影響することが示されている。さらに、この効果は、多数派集団に対して特に強まることが分かっている。こうした認知傾向は、ステレオタイプが形成される背景となっている。

【No. 12】 自己に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 自己と他者を比較することを社会的比較と呼ぶ。人は、社会で適応的に生きていくために、自分の能力の程度や意見の妥当性を評価しようとし、一般的に、自分と特に異なる特徴や属性がある他者と比較することを好む。また、社会的比較は多様な動機によって行われることが明らかになっており、例えば、自己高揚動機によって自分よりも望ましい状態にある人と比較することを、上方比較と呼ぶ。
2. 自己評価維持モデルは、自己と他者の心理的距離、課題や活動が自己定義に関連している度合いである自己関連性及び他者の遂行レベルの三つを要因として構成されている。自己関連性の低い課題や活動において他者の遂行が自分より優れたものであるとき、その他者が心理的に遠いほど、自己評価は脅威にさらされ、嫉妬やフラストレーションを味わう。このような場合、人は自己評価を維持するために、自己関連性を高めたり、心理的距離を縮めたりするなどの対応をとる。
3. 自尊感情とは、自己に対する全体的評価を指す。様々な状況を越えて安定して保持される自尊感情を特性自尊感情と呼び、時々の状況次第で変動し得る自尊感情を状態自尊感情と呼ぶ。また、自尊感情には、本人が意識できる顕在的自尊感情と本人が意識できない潜在的自尊感情があり、両者の間の相関は一貫して高いことが指摘されている。潜在的自尊感情の測定方法の一つとして、M. ローゼンバーグの自尊感情尺度がある。
4. セルフ・スキーマの機能を実証的に検討した H. R. マーカスによる実験では、独立性関連語（個人主義的など）、依存性関連語（協調的など）を提示し、自分に当てはまるかどうかを判断させた。その結果、自分を独立的だと捉えている独立スキーマ群は依存性関連語で、自分を依存的だと捉えている依存スキーマ群は独立性関連語で、それぞれ判断が速いことが示された。この結果から、セルフ・スキーマによって、自己になじみのない情報の処理が活性化される一方で、自己に関係する度合いの高い情報の処理は抑制されるといえる。
5. 自己呈示とは、相手にある印象を与えようとして、自分のある側面を呈示することを指す。自己呈示は他者に向けられる行為だが、他者に自分のある側面を見せることは、自己概念にも影響を与える。他者に向けて自己呈示的な行為をすることにより、その行為から示される属性に合致するように自己概念が変化することが示されている。このような現象は自己呈示の内在化と呼ばれている。

【No. 13】 心理臨床のアセスメントに関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. クライエントの特徴や問題に関する多面的な情報を収集するために様々な心理検査を組み合わせることをテストバッテリーと呼ぶ。面接では分からないクライエントの内面を深く多面的に理解するためにロールシャッハ・テストと TAT の 2 種の投射法検査を実施するなど、同種の検査でテストバッテリーを組むことが望ましいとされる。アセスメントにおいて面接法や観察法が用いられることもあるが、どのような事例でも心理検査の実施は必須である。
- B. ケースフォーミュレーションとは、アセスメント結果を基にして、それらを一つの枠組みに総合することである。ケースフォーミュレーションでは、クライエントの問題に先行する状況や出来事と、それに伴う認知、感情、身体的状態、行動の相互作用を記述することが必須である。ケースフォーミュレーションの最終的な目的は、主訴とされる不適応や病状への適切な医学的診断を下すために必要な情報を整理することである。
- C. アセスメント・介入・支援は互いに独立したものであり、ケースフォーミュレーションで生成された作業仮説は、アセスメント段階の終了に伴って完結する。したがって、介入・支援を行う段階では、アセスメントで生成された作業仮説の変更はせず、この作業仮説に基づく介入計画や支援方針に従うことが求められ、介入・支援が終了した段階で、効果研究を通してこの作業仮説の検証が行われることが一般的である。
- D. ケースフォーミュレーションの様式は、セラピストが拠って立つ理論によって異なる。ケースフォーミュレーションは、面接や心理検査などで収集された情報を特定の心理療法理論に当てはめ、同理論に沿ってクライエントの問題について説明する過程ともいえる。一方で、面接や心理検査などを実施する段階では、学派を超えて幅広い情報を収集することが望ましいとされている。

1. C
2. D
3. A、B
4. A、C
5. B、D

【No. 14】 集団心理療法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 集団力動(グループダイナミクス)とは、グループに所属するメンバー同士の相互的交流を通してメンバー間に転移が生じ、その解釈によって個々のメンバーの自己理解や人格変化が促されることを指す。集団心理療法のうち、精神分析的集団精神療法では、集団力動を活用した治療が行われているが、集団認知行動療法では、集団力動はほとんど活用されず、複数のクライアントを同時に治療できるという効率性・経済性の高さが重視されている。
2. 集団凝集性とは、集団に所属する個人が集団に魅力を感じ、とどまろうとする現象である。集団凝集性が高くなると、集団の一体感が高まる分、集団の中で個人の特性や問題性が扱われにくくなる傾向が強くなることから、集団凝集性は、集団心理療法の治療効果を減退させる要因と考えられている。
3. 集団心理療法におけるグループは、出会いから別れまでいくつかの段階を踏んで発達していくといわれている。アメリカ集団精神療法学会によると、通常、出会いの時期である「活動期」の後、不安によってサブグループが形成されやすく、クライアント間の衝突などが生じやすい「別離期」となる。その後、クライアント間の関係が築かれていくにつれ、親密なやり取りが増えるなど穏やかに推移し、「動乱期」で別れを体験する。
4. 集団心理療法は、複数のクライアントで構成された集団で行われる心理療法である。集団心理療法には様々な種類があり、原則として途中参加を認めないクローズドグループで実施することが推奨されるが、態様や方法論は目的やセラピストが拠って立つ理論によって異なる。グループアートセラピーは集団心理療法だが、サイコドラマや自助グループは集団心理療法に含まれない。
5. I. D. ヤーロムは、集団心理療法の効果因子を提唱した。ヤーロムによると、集団心理療法には、普遍性(他者も自分と同じような悩みをもっていることを知る)、対人学習(グループ内のコミュニケーションを通してより良い対人行動を学習する)、希望をもたらしこと(他者の成長や変化を目の当たりにして将来に希望をもてるようになる)、愛他主義(他者を援助することを通じて自己概念を高める)など、特有の効果があるといわれている。

【No. 15】 次は、家族療法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

家族療法は、家族を一つのまとまりをもったシステムとみなし、その家族システムを治療の対象とする心理療法である。家族システムの特徴として、「階層性」をもち、外界の他のシステムと情報をやり取りしつつ、相互に影響を与えながら「円環的因果律」の中にあることが挙げられる。家族療法の発展に寄与した代表的な理論に、矛盾したメッセージを送ることによるコミュニケーションを指す があり、これは G. ベイトソンによって提唱された。

また、代表的な家族療法モデルとして、S. ミニューチンによる や J. ヘイリーによる戦略的家族療法が挙げられる。 のセラピストは、家族システムに し、「境界(boundaries)」、「提携(alignment)」、「勢力(power)」などについてアセスメントする。ワンウェイミラーやインターホンを用いて面接時に介入する方法も、この流派の特徴である。

家族療法では、 や などの様々な技法が用いられる。 は、セラピストが家族の文化に溶け込んでいくための技法であり、家族の言動の特徴を観察、模倣する。また、 は、介入のための技法であり、例えば IP(Identified Patient) が呈している問題行動について、家族が解決のために働き掛けていることが悪循環の一端を担っている場合、セラピストが、その問題行動を維持又は強化するように指示を与えることで悪循環を断とうとするものである。

A	B	C	D
1. コンフリクト	構造的家族療法	リフレクティング	逆制止
2. コンフリクト	多世代家族療法	ジョイニング	逆制止
3. ダブルバインド	構造的家族療法	ジョイニング	逆説処方
4. ダブルバインド	構造的家族療法	リフレクティング	逆制止
5. ダブルバインド	多世代家族療法	リフレクティング	逆説処方

【No. 16】 統合失調症に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 統合失調症は、DSM-5(精神疾患の診断・統計マニュアル)以降、「スペクトラム」という概念を用いて分類されている。DSM-5-TR では、症状や重症度、持続時間等によって診断名が異なり、統合失調スペクトラム症及び他の精神症群のうち、症状もしくは障害の兆候の持続期間が6か月以上のものは統合失調症、1か月以上6か月未満のものは統合失調様症と診断される。
2. 統合失調症の主な症状は妄想と幻覚であり、DSM-5-TR における統合失調症の診断基準では、妄想と幻覚の両方の症状を示している必要がある。他にも統合失調症の症状には、発話の統合不全、行動の著しい統合不全、陰性症状がある。なお、幻覚のうち、幻視の方が幻聴よりも出現率が高いとされる。
3. 統合失調症の症状の一つである発話の統合不全は、単語や語句のつながりが滅裂で、意味不明であることが特徴とされる。DSM においては、DSM-5-TR 以降は、統合失調症の優勢な症状を元に、妄想型、破瓜型、緊張型、鑑別不能型、残遺型という類型で理解することが奨励されており、これらのうち、発話の統合不全を主症状とする破瓜型は、以前は解体型と呼ばれていた。
4. 統合失調症の発症率は全人口の約0.1% だといわれており、発症は青年期頃から見られ始める。統合失調症の治療には、薬物療法が必要不可欠であり、これに加えて心理学的介入が併用される。新たな心理学的介入として、統合失調症の症状をなくすことを目的に開発された認知行動療法があり、症状改善の効果が実証されている。
5. 統合失調感情症は、統合失調症と症状が重なる精神疾患である。統合失調症の症状と抑うつもしくは躁エピソードの症状が同時期に認められる症例の場合、DSM-5-TR の診断基準に従えば、統合失調症の基準Aのうち、いずれか一つの症状が2週間以上持続しているのであれば、その期間中の気分エピソードの有無にかかわらず、統合失調感情症と診断される。

【No. 17】 DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)における「物質関連症及び嗜癖症群」に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 「物質関連症及び嗜癖症群」に含まれる非物質関連症として、インターネットゲーム行動症に加え、性嗜癖、窃盗症、放火症等がある。これらは、乱用薬物によって活性されるのと類似の報酬系を賦活し、物質使用症によって生じる行動上の症状と同等であるようにみえる症状を生じさせる。他方、ギャンブル行動症は、そうした報酬系の賦活が認められないことから、「物質関連症及び嗜癖症群」には含まれない。
- B. 物質関連症群は、物質使用症と物質誘発症の2群に分けられる。これらのうち、物質使用症は、物質に関連した重大な問題が生じているか否かにかかわらず、その人が物質を使用し続けていることを示す、認知的、行動的、生理学的症状の一群である。重症度は、満たされた症状基準の数ではなく、本人や周囲が感じる生活上の困難さなどの主観的な評価及びそれらの程度に基づいて判断され、重症度の一般的な評価として、軽度、中等度、重度、最重度の四つに分けられる。
- C. アルコール離脱の基本的特徴は、大量かつ長期間にわたっていたアルコール使用の中止又は減量後、数時間から数日以内に発現する特徴的な離脱症候群の存在である。離脱症候群は、自律神経系過活動や不安を反映する症状を含み、消化器症状を伴う。また、典型的には、離脱症状は、アルコール使用の中止又は減量の後でアルコール血中濃度が急激に減少したときに出現する。
- D. 「鎮静薬、睡眠薬又は抗不安薬使用症」の対象となる薬物として、ベンゾジアゼピン、非ベンゾジアゼピン系の抗不安薬、バルビツール酸などが含まれる。それらは、アルコールと同様、脳に対して抑制的に働く。他方、鎮静薬、睡眠薬又は抗不安薬使用症がもたらす社会的及び対人関係での結果は、アルコールとは異なり、脱抑制行動がみられないとされる。

1. A
2. C
3. B、C
4. A、D
5. B、D

【No. 18】 次は、ひきこもりに関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ひきこもりは、1990年代後半から日本社会において注目され始めた現象で、厚生労働省が2010年に公表したガイドライン^{*1}では、様々な要因の結果として社会的参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には 以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態と定義されている。従前は、ひきこもりは日本独自の現象とされていたが、最近ではひきこもりに関する症例が様々な国で報告されている。

ひきこもりは、様々な精神疾患との併存が報告されており、必要に応じて治療につなげることも重要である。なお、ガイドラインでは、ひきこもりについて、原則として の症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とされている。

令和4年度に内閣府が実施した調査^{*2}によると、現在、日本国内には、広義のひきこもりとされる者が推定 人に一人いるとされている。この調査における広義のひきこもりとは、「普段どのくらい外出しますか」という質問に、「趣味の用事のときだけ外出する」、「近所のコンビニなどには出かける」、「自室からは出るが、家からは出ない」、「自室からほとんど出ない」のいずれかであると回答し、そうした状態に 以上ある者とされている。ただし、病気を理由に自宅から出られない者や、育児や介護がある者、家族以外との交流が保たれている者等は除外され、単に外出しないというだけでは該当しない。また、ひきこもりは一般的に の方が多いとされている。

厚生労働省が2025年1月に新たに公表した「ひきこもり支援ハンドブック」では、ひきこもり支援の対象者を、社会的に孤立し、孤独を感じている状態にある人や、様々な生きづらさを抱えている状態の人やその家族(世帯)としており、その状態にある期間は問わないとして、ひきこもり支援の対象者をより広く捉えることとしている。

*1 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」

*2 「こども・若者の意識と生活に関する調査」

	A	B	C	D
1.	6か月	統合失調症	50	男性
2.	6か月	統合失調症	500	女性
3.	1年	自閉スペクトラム症	50	男性
4.	1年	自閉スペクトラム症	500	女性
5.	1年	統合失調症	50	女性

【No. 19】 次は、実験法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、 については設問の都合上伏せてある。

著作権の関係のため、掲載できません。

A	B	C	D
1. dependent	independent	random assignment	experimental
2. dependent	independent	three groups	comparison
3. independent	dependent	amount of money offered	experimental
4. independent	dependent	level of intelligence	comparison
5. independent	dependent	random assignment	comparison

【No. 20】 統計法に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 統計的検定では、帰無仮説を立ててから推論を始める。帰無仮説の下で、観測された検定統計量以上に極端な値が得られる確率を p 値と呼び、 p 値が有意水準 α より大きいとき帰無仮説を棄却する。「帰無仮説が正しくないときに帰無仮説を採択する誤り」のことを第一種の過誤、「帰無仮説が正しいときに帰無仮説を棄却する誤り」のことを第二種の過誤と呼ぶ。
2. 実験における各群への参加者の割り当て方として、ランダム(無作為)に各群に分ける方法や、参加者のマッチング(従属変数に影響を与える参加者の個人変数を用いて、参加者の対をつくる)をした上で、参加者をいずれかの群に割り当てる方法がある。後者の方法は、平均値差に関する検定力が大きくなることを期待して行われる。
3. 分散分析は、複数の要因の効果について同時に分析することができる。二要因の分散分析の際、二つの要因のうち一方の要因の水準ごとにみた場合における他方の要因の効果の在り方の違いを「主効果」と呼ぶ。また、二つの要因それぞれの効果を「交互作用効果」と呼ぶ。主効果と交互作用効果のそれぞれ二つ、計四つの効果を検定できる。
4. カイ二乗検定は、母集団における比率の差の検定において、独立変数、従属変数がともに量的変数であるときに用いられる方法である。 χ^2 (カイ二乗統計量)は、クロス集計表のセルごとに「(観測度数 - 期待度数)² / 観測度数」を求め、それらを合計したものであり、 χ^2 は、帰無仮説の下で自由度「(クロス集計表の行数 - 1) × (クロス集計表の列数 - 1)」のカイ二乗分布に近似するという性質をもっている。
5. 因子分析は、因子数や因子と変数の関係などについて、明確な仮説がないまま分析を始める確認的因子分析と、それらについて仮説を設定してから分析を始める探索的因子分析に大別される。探索的因子分析において因子間の相関を仮定する場合には、各因子軸を独立に回転する「直交回転」を用いるが、その一つに「バリマックス回転」がある。

No. 21～No. 60

(矯正心理専門職区分)

No. 21～No. 60 は**選択問題**です。これらの問題のうちの任意の 20 題を解答してください。

なお、20 題を超えて解答しても、超えた分については採点されません。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

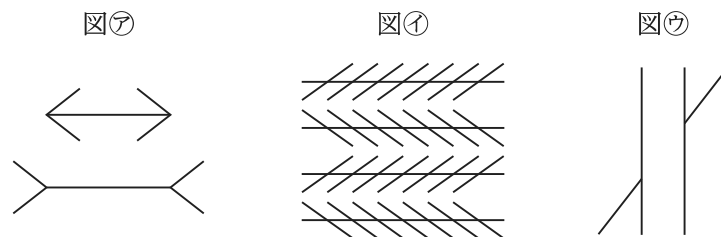
(法務教官区分、保護観察官区分)

No. 21～No. 60 は**必須問題**です。これらの問題について、**全てを解答**してください。

解答は、問題番号に該当する答案用紙の番号欄に記入してください。

【No. 21】 視覚に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. ゲシュタルト心理学によると、人がものを見るときには、ある法則に従って、まとまりをつくろうとする傾向をもち、図として知覚された幾つかの対象があるまとまりをもって現れる傾向はプルキンエ現象と呼ばれる。ゲシュタルト心理学者の E. H. ウェーバーは、まとまりがつけられる要因として、①近接、②良い連続、③良い形、④共通運命、⑤類同、⑥閉合、⑦客観的構え、⑧経験の八つを挙げている。
- B. 奥行き知覚には、絶対距離知覚と相対距離知覚がある。絶対距離とは、観察者から知覚される対象までの距離であり、相対距離とは、知覚される対象間の距離である。奥行き手がかりには、両眼性及び単眼性の二種類があり、両眼性の奥行き手がかりの例として、両眼視差や輻輳が挙げられる。
- C. 継時的に提示された静止対象の間に、運動の印象が知覚される現象を仮現運動と呼び、異なる位置に配置した二つの光点が交互に点滅した際、両者の間に運動の印象が知覚される。他にも、実際には動いていないものが動いて見える現象として、滝を見続けて目をそらすと、滝の流れと同じ方向の動きが感じられる運動残効や、風に流される雲の動きによって夜空に浮かぶ月が動いて見える自動運動がある。
- D. 錯覚の一種である錯視には、天体錯視や幾何学的錯視などがある。天体錯視は、月や太陽や星座が水平線に近いときは、天空にあるときに比べて小さく見える現象である。下図は、幾何学的錯視の例であり、図㉔はミュラー＝リヤー錯視、図㉕はポッゲンドルフ錯視、図㉖はツェルナー錯視である。



1. B
2. C
3. A、B
4. A、D
5. C、D

【No. 22】 印象形成に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. N. H. アンダーソンは、ある人物の性格特性を表す単語リストを参加者に提示し、参加者にその人物に関する印象を述べさせるという実験を行い、性格特性には、ある人物の全体的な印象に強い影響を与える中心特性と、あまり影響を与えない周辺特性があることを示した。その後、最初に提示された単語が全体的な印象に強い影響を与えるというプライミング効果や、反対に、最後に提示された単語が強い影響を与えるというリバウンド効果も発見された。
2. F. ハイダーは、人には、自分を含む様々な対人関係の中に均衡状態を知覚しようとする欲求や傾向があり、均衡状態の崩れを知覚すると均衡状態を回復しようとする認知的不協和理論を唱えた。この理論では、知覚者、他者、対象という3者関係において2者が一体であるという知覚である心情関係と、相手や対象に対してもつ好き嫌いの感情を表す単位関係をそれぞれ+と-で表現したとき、バランス状態は3者関係全てが+の場合のみであるとされる。
3. 態度の類似性は対人魅力を高めるとされている。これは、態度の類似した相手は「自分の意見に賛同を示す」という報酬を与えてくれることや、好意をもつ相手が自分と類似した考えをもっていることで認知的な一貫性を保つことができるといった理由があるためである。一方で、自分にはない特徴を相手が有するという相補性も関係形成を促進するとされている。
4. R. B. ザイアンスは、記憶の実験と称して、参加者に未知の人の写真を数種類見せ、写真の人物に対する印象を尋ねると、見た回数が多いほど、写真の人物に対する好意度が高くなるという結果を示した。このように、刺激対象に繰り返し接しただけで好意度が高まる現象をフレーミング効果と呼ぶが、好意度が高まる対象は人に限られている。
5. 外見は、特に人間関係の初期段階で対人魅力を左右するとされており、E. ウォルスターらの実験では、初対面の大学生の男女をランダムに組み合わせてダンスパーティーを開催したところ、男女とも、自分自身の外見の魅力度とおおむね同程度の魅力をもつ相手に対して、好意を抱くことが明らかになった。なお、外見的な魅力が高い人物は、全体として、性格や知性など外見とは関係のない要素において、否定的な評価を受けやすいともいわれている。

【No. 23】 感情や情動に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 情動に関して、W. M. ヴントは、刺激や状況によって生じた身体的変化(内臓の活動、表情、声、姿勢の変化など)を知覚したものであると主張し、J. A. ラッセルは、身体的変化、特に自律神経系に生じた反応を知覚したものであると主張した。これらのように、刺激によって生じた身体的反応が脳に伝達されることで情動の体験が生じると主張する説を、ソマティック・マーカー仮説と呼ぶ。
2. W. B. キャノンらは、特定の刺激状況にさらされると、まず視床下部が活性化し、その興奮の情報が、身体の骨格筋や自律神経系に送られて生理的・身体的反応が生じると同時に、大脳皮質にも送られて情動が生じると主張した。このように、刺激を知覚した脳によって、情動と身体反応が同時に生じるとする説をキャノン＝バード説と呼ぶ。
3. S. シャクターとJ. シンガーの実験では、実験参加者にビタミン剤と偽ったアドレナリンを注射し、怒りっぽく振る舞う他者と過ごすグループと陽気に振る舞う他者と過ごすグループに分けた。その結果、前者のグループの参加者には自分もいらだっていると報告する者が多かったが、後者のグループの参加者には幸福感を感じていると報告する者は少なかった。この実験結果から、生理的な興奮が高まった際、ポジティブな刺激よりも怒りの刺激に注意が向きやすいという、怒り優位性効果が主張されるようになった。
4. P. エクマンは、情動には「困惑」、「満足」、「崇拜」の三つの基本情動があり、基本情動には特有の表情や生理的反応のパターンが備わっていると主張した。また、エクマンらは、世界各地の人々に顔の表情を示す人物写真を提示し、それぞれの人物がどの情動を感じているかを判定してもらう実験を行い、表情が表している情動の認識において、言語文化圏による違いがあることを示した。
5. R. プルチックは、人の行動には6種類の原型があり、それに対応する純粹感情が存在するとした。そして、行動の原型は色相環のような円環状に配置することができ、相反する純粹感情が隣に、類似した純粹感情が対極に配置されるという構造をもつこと、純粹感情は単体で知覚されるものであり、複数の純粹感情が混合することはないことを主張した。

【No. 24】 次は、J. ピアジェら (Piaget & Inhelder, 1956) が認知発達の特徴を調べるために行った実験の概要である。この実験の結果及びピアジェが主張した理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

【実験の概要】

子どもに下の図のような山の模型を提示する。まず子どもに模型全体を見せた後、子どもをある側面(例：A)に座らせ、子どもとは異なる側面(例：C)に人形を置く。そして、模型を様々な側面から模写した絵の中から、人形の位置からの山の見え方を子どもに選択させる。

著作権の関係のため、掲載できません。

1. 4歳から7歳頃までの子どもの多くは、初めて質問に答える際は、自分の座っている位置からの見え方を答えて間違ふ傾向があるが、他の子どもが正解している様子を見て、すぐに正しい答えやその理由を理解して、正解できるようになる。ピアジェは、他者の行動やその結果を観察することで、より妥当な認知を習得していく学習スタイルの存在を見だし、新たな認知の習得には必ずしも学習の強化は必要でないと主張した。
2. 4歳から7歳頃までの子どもの多くは、どれだけヒントや説明を与えても質問に正解できないが、7歳を超えた特定の時期から、何のヒントや説明もなしに正解できるようになる。ピアジェは、人間の発達において通常期待される認知発達の段階が進むには、準備性が備えられている必要があり、準備性が備わらない段階での早期教育や働き掛けは効果がないと主張した。
3. 4歳から7歳頃までの子どもの多くは、自分一人で考えて質問に答えると間違ってしまうが、大人がヒントを与えると正解することができる。ピアジェは、子どもの認知発達の水準を、「自力で問題解決ができる現下の発達水準」と、「他者からの援助や協同によって達成が可能になる水準」に分け、教育においては、この二つの水準の間の領域に適合した働き掛けを行うことが必要であると主張した。
4. 4歳から7歳頃までの子どもの多くは、質問に対し、自分の座っている位置からの見え方を答えて間違ってしまう。ピアジェは、この年齢段階の子どもは、物事の一つの側面だけにしか注意を向けることができず、自分自身の現在の立場からの見方・考え方・感じ方にとらわれる傾向が強いが、成長とともに、物事を多面的・客観的に捉えられるようになると主張した。
5. 4歳から7歳頃までの子どもは、質問に対し、自分の座っている位置からの見え方を答えて間違える者と、質問の意図を理解できずに答えられない者に分かれるとした。ピアジェは、この時期の子どもの認知発達の段階を「感覚運動期」と呼び、「事物が見えなくなっても、同一の物体として存在し続ける」という「対象の永続性」の概念を獲得しておらず、見え方が違うと別の物であると考えてしまうことが誤答や無回答の要因であると主張した。

【No. 25】 次は、S. フロイトが唱えた心理－性的発達論に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

S. フロイトは、心の発達を性的な欲動(リビドー)との関係で論じ、欲動を満たす身体部位から独自の発達段階を考えた。この理論では、各発達段階において欲動が十分に満たされなかったり、逆に過剰に刺激されたりすると、その段階に心理的に し、特定のパーソナリティや中心的となる防衛機制が現れると考えられている。以下の記述は、各発達段階の説明である。

口唇期は、生後から1歳半頃までの時期であり、活動の中心が口に置かれ、吸うことや噛むことを通して欲動の充足が図られる。この時期に している人は、自分の中にある、受け入れがたい感情、願望、態度などを、外に投げ出し、外界や他者のものとして認識する の防衛機制をよく使用するとされている。

肛門期は、1歳半頃から3歳頃までの時期であり、排泄機能のコントロールが可能になることなどが示すように、環境への主張的で能動的姿勢が芽生える。また、親が排泄のしつけを開始する時期でもあり、排泄をめぐる親との関係性によって特徴的な性格傾向が形成される。

は、3歳頃から5歳頃までの時期であり、異性の親に対して心理的な性愛的愛着をもつと同時に、同性の親に対して敵意をもち始める。そして、このような気持ちをもつことで親から処罰されるのではないかと不安を感じるが、同性の親がもつ特徴を自分の中に取り入れることで乗り越えていく。

潜伏期は、6歳頃から12歳頃になるまでの欲動が鎮まる時期であり、集団生活やスポーツ、遊びなどを通して社会的規範の学習や知的活動にエネルギーが注がれる。そして、12歳頃以降の時期である になると、第二性徴の発現に伴い、自分の性を意識し、相手の全人格を認めるという性愛が完成する。

A	B	C	D
1. 固着	投影	性器期	男根期
2. 固着	投影	男根期	性器期
3. 退行	投影	性器期	男根期
4. 退行	同一化	性器期	男根期
5. 退行	同一化	男根期	性器期

【No. 26】 不登校に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 不登校に関する初期の代表的な研究者である I. T. ブロードウィンは、1900 年代前半、これまでの怠け・怠学とは異なる神経症的な側面をもった、学校に行きたくても行けないという葛藤を抱えた子供たちがいることを初めて報告した。その後、A. M. ジョンソンらによって、「学校恐怖症」という言葉が用いられるようになり、我が国でもこの用語が使用された時期があった。
2. 我が国における不登校とは、現在の文部科学省の定義によると、病気や経済的な理由を除き、年間 60 日以上学校を欠席した児童生徒とされており、非行と同様、問題行動の一つとして扱うよう方針が示されている。近年、少子化の影響と多様な不登校支援により、小中学校における不登校の児童生徒数は減少傾向にあるものの、依然としてその背景は複合的で多様である。
3. 教育支援センター(旧適応指導教室)とは、学校法人や NPO 法人が運営する、不登校の子供を支援する代表的な機関である。一方、学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)は、各都道府県に設置が義務付けられているものであり、教育課程は一般の学校と同様だが、少人数指導や体験活動が充実している。
4. 昨今の不登校支援では、社会的自立を重視する方向から、教育機会の確保を重視し、学校復帰を前提とする方向に変化してきた。不登校の時期は、休養や自分自身を見つめ直すことが重要であるため、児童生徒の社会的自立や進路選択に向けた取組は、登校できるようになるまでは行わず、学校復帰後に、保護者や学級担任等において検討することとされている。
5. 不登校の要因や背景は様々だが、精神疾患がある場合も少なくないため、適切な支援につなげることが重要である。近年、不登校支援の充実により、不登校児童生徒のほとんどは長期化せずに学校に復帰している。そのため、不登校の児童生徒数は、中学卒業まで学年が上がるほど減っており、特に、中学校第 1 学年で大幅に減少することは「中 1 ギャップ」と呼ばれている。

【No. 27】 次は、ストレス研究に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、Bには、㊦又は㊧のいずれかが入る。

元来、ストレスという言葉は、物理学や工学領域で一般化された言葉であり、外からの圧力によって、圧力をかけられた物体に「ひずみ」が生じることを意味する。

ストレスという用語を初めて医学生理学分野に導入したのは、H. セリエとされる。彼は、動物実験を通じて、寒冷や高温、外傷など種々の刺激(ストレッサー)が、非特異的な生理的反応(ストレス反応)を引き起こすと考え、この反応を としてまとめた。彼は、ストレッサーに対する身体の抵抗力の変化として、 を警告反応期、抵抗期、^{ひはい}疲憊期の三つの段階に区分し、ストレッサーが除去されないと、最終的には身体の抵抗力が枯渇するものとしてモデル化した。彼が時間経過と身体の抵抗力の関係として示した図は である。

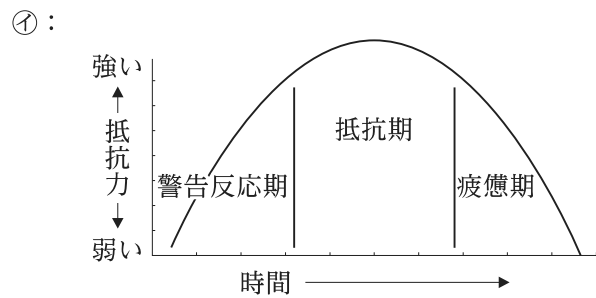
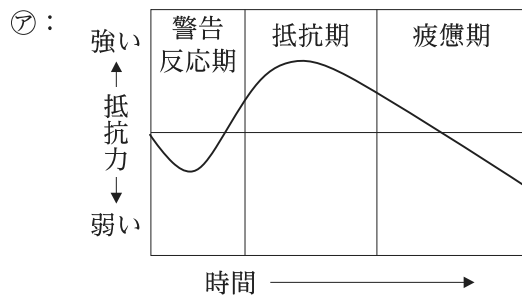
また、人は社会的な存在であり、物理的・生物学的・化学的ストレスだけでなく、心理社会的ストレスの視点も重要となる。T. H. ホームズと R. H. レイは、人生に影響する出来事や生活上の大きな変化(ライフイベント)を経験することが、その人に社会的再適応を余儀なくさせ、心身疾患のリスクを高めると考え、個人のストレスレベルを測定するための「社会的再適応評価尺度」を作成し、ライフイベントの重大性の程度に応じた得点を設定した。【表】には、例として、「Aさん」の1年間のライフイベントと社会的再適応評価尺度による得点を示しているが、彼らの理論に基づくと、Aさんの1年間の得点の計算結果は、 となり、この点数が高いほど、一定期間経過後の疾病罹患率が高いとされる。

一方、同じストレッサーに直面しても、それに圧倒されて強いストレス反応を示す人もいれば、あまりストレス反応を示さずに問題解決する人もいる。R. S. ラザルスと S. フォルクマンは、ストレッサーに対する「認知的評価」を重視し、同じストレス状況にさらされても、刺激をどの程度ストレッサーとして認知し、対処能力をどの程度有するかによって、ストレス反応に個人差が現れるとした。彼らは、認知的評価を「一次的評価」と「二次的評価」に分けており、「出来事が自分にとってどの程度脅威的なものか」を評価することは、 に分類される。一連の評価プロセスを経て、人はストレッサーに対して、問題そのものに働き掛けたり、あるいは自身の感情を調整したりといった、様々なコーピング(対処行動)を選択する。

【表】

Aさんの1年間の ライフイベント	「社会的再適応評価尺度」 による得点
自分のけがや病気	53 点
結婚	50 点
職場の上司とのトラブル	23 点
クリスマス	12 点

Bの候補



A	B	C	D
1. 闘争－逃走反応	㊦	$53 + 50 + 23 + 12 = 「138 点」$	二次的評価
2. 闘争－逃走反応	㊩	$53 - 50 + 23 - 12 = 「14 点」$	二次的評価
3. 汎適応症候群	㊦	$53 - 50 + 23 - 12 = 「14 点」$	二次的評価
4. 汎適応症候群	㊦	$53 + 50 + 23 + 12 = 「138 点」$	一次的評価
5. 汎適応症候群	㊩	$53 - 50 + 23 - 12 = 「14 点」$	一次的評価

【No. 28】 次の事例を踏まえた上で、心理療法とその説明に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

【事例】 ある大学の学生相談室に、大学生A(相談者)が相談に訪れた。所属する大学の研究室での定期的な発表の日のことを考えると、「完璧に発表できなかったら、他の学生から笑い者にされる」、「少しでも手を抜いたら、担当教員から見放されるのではないか」といった思いに捉われてしまうと言う。相談者は、発表の日が近づくと緊張感が高まって、一週間前から寝付けなくなり、発表当日も動悸や頭痛がして、発表に集中できなくなっており、こうした状態を改善したいと話している。

A. 【療法】S. フロイトの精神分析

【説明】親による厳しいしつけや成績のみを重視する教育方針などによって生じる親子間葛藤に、症状や問題の根源があると考え、セラピストが設定する家族関係などのテーマに対し、相談者が思い付いたことを自由に話す「回想法」によって介入する。セラピストの基本的態度として、「無条件の肯定的配慮」や「共感的理解」が重視され、真摯な態度で相談者の回想に傾聴することで、過去の親子関係から自由になるカタルシス効果が生じることを目指す。

B. 【療法】C. R. ロジャーズのクライエント中心療法

【説明】相談者の自我機能を「大人／親／子ども」の三つの側面に分けて、パーソナリティを理解した上で、問題の原因を理解するよりも、相談者がもつ強さや可能性、成功体験にフォーカスし、より望ましい将来像に向けて、問題解決のための行動を喚起する。例えば、リフレーミングやミラクル・クエスションなどの技法を用いて、「完璧を求めて苦しんでいる」を「物事に誠実に向き合って試行錯誤している」とポジティブに捉え直し、現状をより良く変化させる方法を考えていく。

C. 【療法】J. ウォルピの系統的脱感作法

【説明】オペラント条件づけのシェイピングに基づく行動療法である。まず、筋弛緩法などを用いて、緊張や不安と相容れないリラックス状態(拮抗状態)を獲得する。その後、相談者が作成した不安階層表を用いて、まず初めに、最も不安が高い「研究室での発表当日」をイメージする中で、リラックス状態を作れるように練習を繰り返す。不安が十分に弱まったら、「発表の前日」や「発表の一週間前」など段階的に、より不安が弱い場面の練習に移行していく。

D. 【療法】A. T. ベックの認知療法

【説明】物事の捉え方や考え方である「認知」に介入することで、症状や問題の解決を目指す。この療法では認知を、自動思考、推論の誤り及びスキーマの三つに大別する。相談者の推論の誤りの例として、「完璧な発表でなければ、全て失敗だ」という「全か無か思考」や「発表には常に全力を注ぐべきだ」という「べき思考」が考えられ、思考記録表やソクラテス式質問法を用いて、より適応的で現実的な認知を見付けることを目指す。

1. A
2. D
3. A、B
4. B、C
5. C、D

【No. 29】 次は、精神疾患に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

ただし、A及びBには、以下に示す【抑うつエピソードの診断基準(概要、順不同)】の㉖～㉙のいずれかが入る。

うつ病の診断に不可欠な「抑うつエピソード」とは、DSM-5-TR(精神疾患の診断・統計マニュアル)によれば、以下の九つの症状である。

【抑うつエピソードの診断基準(概要、順不同)】

- ・㉖：自殺念慮・自殺企図
- ・㉗：疲労感又は気力の減退
- ・㉘：睡眠障害
- ・㉙：抑うつ気分
- ・㊱：興味又は喜びの喪失
- ・思考力や集中力の減退又は決断困難
- ・体重又は食欲の変化
- ・無価値観又は自責感
- ・精神運動性の焦燥又は抑制

診断には、これらの症状のうち、五つ(又はそれ以上)が同じ2週間の間に存在し、病前の機能からの変化を起こしていることが不可欠であり、少なくとも 又は を満たす必要がある。これらの抑うつエピソードを満たし、その症状が臨床的に意味のある苦痛、又は社会的、職業的、又は他の重要な領域における機能の障害を引き起こしており、そのエピソードが物質の生理学的作用、又は他の医学的状态によるものではなく、かつ、躁エピソード又は軽躁エピソードを満たさない場合に、うつ病と診断される。

うつ病と診断した後に、気分が異常かつ持続的に高揚し、開放的又は易怒的となるという躁エピソードや軽躁エピソードを呈した場合には、うつ病の診断から I型又は II型の診断に変わるため、注意が必要である。 I型は、躁エピソードと抑うつエピソードを繰り返す気分変調を主特徴とする精神疾患であり、躁エピソードと抑うつエピソードを生涯掛けて繰り返すため、寛解期を含めた一生を掛けての長期的な薬物療法と支持的な心理社会的支援が必要である。

職場等で見られる、うつ病と類似する精神疾患として、はっきりと確認できるストレス因に反応して、そのストレス因の始まりから3か月以内に情動面又は行動面の症状が出現し、ストレス因終結後6か月以内に症状が消失するものは と診断されることがある。 は、うつ病や他の精神疾患の基準を満たしていない場合のみ診断できるとされている。

A	B	C	D
1. ア	イ	双極症	急性ストレス症
2. ア	ウ	重篤気分調節症	適応反応症
3. イ	エ	双極症	急性ストレス症
4. ウ	オ	重篤気分調節症	急性ストレス症
5. エ	オ	双極症	適応反応症

【No. 30】 調査法に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 留置調査とは、調査実施者が調査対象者に調査票を渡し、後日、記入済みの調査票を回収する方法であり、その特徴として、回答率が低くなりやすいことが挙げられる。オンライン調査とは、Web サイト上で質問項目に対して回答を求める方法であり、その特徴として、代表性のある標本を対象にできることが挙げられる。
- B. 母集団の構成員全員を対象とする調査を全数調査と呼び、母集団から抽出した標本を対象とする調査を標本調査と呼ぶ。標本調査では、母集団から偏りなく標本を選ぶことが重要である。母集団の要素が全て同じ確率で選ばれる方法は無作為抽出と呼ばれ、母集団に関する推定を行うときには不可欠である。有意抽出は、標本に偏りが生じやすく、母集団を代表しない危険性が高まる。
- C. 質問票におけるワーディングが参加者の回答に影響を及ぼす可能性がある。例えば、一般論について尋ねる質問項目と回答者自身について尋ねる質問項目があるとき、いずれについて尋ねる質問かが明示されていない質問のことをダブルバーレル質問と呼ぶ。このような場合は、それぞれについて、別々に判断できる形式の質問にする必要がある。また、誘導質問を避けるために、規範や常識を示す方がよい。
- D. フェイスシートとは、研究に関する説明や調査によって取得された個人情報の保護に関する説明等が記載されているシートのことであり、これは、調査票の構成において冒頭に配置した方がよい。また、プライバシーに関する質問項目は、参加者にとって答えやすい質問であるため、冒頭に配置することで調査への協力が得られやすくなる。

1. A
2. B
3. A、C
4. B、D
5. C、D

【No. 31】 M. モンテッソーリに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 主著『エミール』において、大人とは異なる存在としての「子ども」や「子ども期」に固有の価値を見だし、「子どもの教育」について論じた。また、子供の自然な成長力や活動性に従う「消極教育」を提唱した。
2. 主著『児童の世紀』において、20 世紀こそは「児童の世紀」であると宣言するとともに、子供の自発性を無視した従来の公教育の在り方を批判して、子供の自然な成長・発達に基づく学校改革の必要性を提唱し、世界的な共感を呼んだ。
3. 知的障害のある子供への教育実践を障害のない子供にも適用することを考えて、スラム街に設立された保育施設「子どもの家」において、子供の自発的活動を重視し、独自の教具による感覚教育や日常生活の訓練などを開発して実践した。
4. 非行少年の収容施設における矯正教育の実践を通して、集団主義教育の理論を形成した。また、人間の個性の発達には集団においてこそ可能であると考え、「集団における集団による集団のための教育」を説いて、集団のもつ教育力を実証した。
5. 主著『〈子供〉の誕生』において、中世ヨーロッパでは子供期という観念は存在しておらず、「小さな大人」として捉えられていた子供が、近代における家族形態の出現とともに、保護の対象である子供として誕生した歴史を明らかにした。

【No. 32】 我が国の教育史における人物に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 森有礼は、儒教と西洋哲学とを融合して、明治の世に新しい道徳の在り方を提唱するとともに、『西国立志編』や『自由之理』を翻訳し、啓蒙思想の普及に努めた。
2. 新島襄は、幕末に米国に密航して神学を学び、帰国後の明治 8 年に同志社英学校(後の同志社大学)を創設して、キリスト教を土台とした自治自立の人材養成を教育理念に掲げた。
3. 福沢諭吉は、我が国の近代化を推進して、新しい時代を担う人材の育成が必要であると考え、明治 15 年に東京専門学校(後の早稲田大学)を創設した。また、初代文部大臣に就任し、近代教育制度の確立に尽力した。
4. 津田梅子は、和歌・絵画・華道などを重んじる良妻賢母主義的教育に力を注ぎ、女子中等教育に大きな影響を与えた。また、明治 32 年に実践女学校(後の実践女子大学)を創設し、教科書や修養書等の多数の著作物も執筆した。
5. 牧野富太郎は、近代教育制度の確立期において、大学卒業後、文部官僚、学校長、大学総長を歴任した。また、「近代体育の父」、「柔道の創始者」としても知られ、明治 42 年に国際オリンピック委員会(IOC)委員となり、五輪の東京誘致に奔走した。

【No. 33】 我が国における「こどもの居場所」づくりに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 令和7年版こども白書及びこども家庭庁の指針*によると、「こどもの居場所」とは、必ずしも物理的な場所に限らず、好きな遊びや体験活動をしている時間、信頼できる他者とのつながり等、子ども・若者が過ごすあらゆる場所、時間、人との関係性が居場所になり得るが、オンライン空間は犯罪やトラブルに巻き込まれる危険性が高く、「こどもの居場所」とは認められていない。
2. こども家庭庁の指針によると、「こどもの居場所」とは、子ども・若者本人が決めるものである一方で、居場所をつくることは、第三者が中心となっていて行われるものである。そして、子ども・若者は健全な判断力が成長途上にあり未発達であることを踏まえれば、居場所づくりの取組において子ども・若者の声を聴く必要はなく、責任ある大人の視点のみに基づいて居場所を整備することが重要である。
3. 令和7年版こども白書によると、子ども・若者の声は言葉だけでなく表情やジェスチャー、ときには無視や悪態などの攻撃的な態度の中で表現されることがある。また、子ども・若者にとって、自分の思いを整然と説明することは困難であったり、表現された思いに矛盾が生じたり、その矛盾を自身が自覚していなかったりする場合がある。これらはいずれも他者に対する表現として不適切であるから、このような思いは考慮せず、適切な方法で表現された意見のみを考慮すればよい。
4. こども家庭庁の指針によると、子ども・若者は権利の主体であり、「こどもの居場所」において、子どもの権利が守られることは当然の前提である。このため、こども基本法や児童の権利に関する条約の内容などを踏まえ、居場所づくりに関わる大人が広く、子どもの権利について理解し、守っていくとともに、子ども自身が、権利を侵害されたときの対応方法を含め、子どもの権利について学ぶ機会を設けることも重要である。
5. こども家庭庁の「災害時のこどもの居場所づくり」手引きによると、災害時の「こどもの居場所」づくりに関して、外傷的な出来事を体験した直後に、体験を語り合い、それを吟味して、トラウマ反応や対処法に関する心理教育を行うグループ介入の手法は、心理的デブリーフィングと呼ばれ、発災直後における「こどもの居場所」づくりとして必須の取組とされている。

* こどもの居場所づくりに関する指針(令和5年12月22日)

【No. 34】 我が国の性犯罪・性暴力対策に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 児童や生徒など未成年者への性暴力等に当たる行為によって懲戒処分等を受ける教育職員等が後を絶たず、深刻な状況にあったことから、令和3年6月に教育職員等による児童生徒性暴力等の防止等に関する法律が公布され、令和4年4月から施行されている。
- B. 刑事施設及び保護観察所においては、これまで性犯罪者に対して統一的な処遇プログラムを実施していなかったことから、再犯防止施策を充実させるため、新たにプログラムを開発し、令和7年度から「暴力防止プログラム」の実施が開始された。
- C. 教育・保育施設等や子供が活動する場等で働く際に、性犯罪歴等についての証明を求める仕組み(日本版 DBS)の導入に向けた検討を経て、令和6年6月にこども性暴力防止法*が公布され、令和8年12月に施行予定である。
- D. 性犯罪・性暴力を根絶していくために、就学前の教育・保育を含め、学校等において発達の段階にかかわらず同一の教材・指導手引により、「生命(いのち)を大切にする」、「加害者にならない」、「被害者にならない」、「傍観者にならない」ための教育として、女性のための性教育が推進されている。

* 学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための措置に関する法律

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 35】 我が国の特別支援教育に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 平成 19 年度から始まった特別支援教育によって、それまで盲学校、聾学校、養護学校と障害種別に 3 種類あった障害児のための学校が、障害種にとらわれない特別支援学校に一本化された。
- B. 特別支援学校の教育課程の領域は、小学校、中学校、高等学校と対応するほか、「自立活動」の領域があり、その内容は、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションとされている。
- C. 特別支援学級における「特別の教育課程」については、児童生徒の障害の程度や学級の実態等を考慮の上、編成するものとされているが、各教科の目標や内容を下学年のものに替えることや、特別支援学校における各教科の内容を取り入れることはできないとされている。
- D. 通級による指導とは、通常の学級に在籍する児童生徒のうち、障害により、通常の学級での学習や生活がほとんど困難である場合に対象とされ、平成 18 年度から発達障害をもつ児童生徒が通級による指導の対象に含まれるようになったが、知的発達の遅れを伴わない発達障害の場合は対象外とされている。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 36】 次は、我が国の学校教育における情報化に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

「教育の情報化」は、教育の質の向上を目指すものとして、「情報教育」、「教科指導における 活用」、「 の情報化」の、三つの側面から構成される。

平成 28 年の中央教育審議会答申*において「 能力」は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力と定義され、これまでの「 の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報社会に参画する態度」の 3 観点 8 要素だけでなく、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、 等」の三つの柱によって捉えていくことが提言されている。

現行の学習指導要領においては、「 能力」を学習の基盤となる資質・能力と位置付け、教科等横断的にその育成を図るとともに、その育成のために必要な 環境を整え、それらを適切に活用した学習活動の充実を図ることとしており、情報教育や教科等の指導における 活用など、教育の情報化に関わる内容の一層の充実が図られた。

* 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成 28 年 12 月)

	A	B	C	D
1. ICT		校務	情報活用	人間性
2. ICT		校務	プログラミング	積極性
3. ICT		生活指導	情報活用	積極性
4. AI		校務	プログラミング	人間性
5. AI		生活指導	情報活用	積極性

【No. 37】 次は、我が国における教育法規に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- ・ 日本国憲法第 26 条では、「すべて国民は、法律の定めるところにより、その A に応じて、ひとしく教育を受ける権利を有する」と規定されている。
- ・ 教育基本法第 1 条では、「教育は、B を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」と規定されている。
- ・ 教育基本法第 4 条では、「すべて国民は、ひとしく、その A に応じた C を与えられなければならない、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない」と規定されている。
- ・ 学校教育法第 11 条では、「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、文部科学大臣の定めるところにより、児童、生徒及び学生に D を加えることができる」と規定されている。

A	B	C	D
1. 能力	平等な社会	教育を受ける機会	体罰
2. 能力	平等な社会	課題及び評価	懲戒
3. 能力	人格の完成	教育を受ける機会	懲戒
4. 性向及び環境	平等な社会	課題及び評価	体罰
5. 性向及び環境	人格の完成	教育を受ける機会	懲戒

【No. 38】 我が国における公立学校の教員の服務に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 教員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならないが、その職を退いた後は、この限りではない。また、法令による証人、鑑定人等となり、職務上の秘密に属する事項を発表する場合についても、任命権者(退職者については、その退職した職又はこれに相当する職に係る任命権者)の許可を受ける必要はない。
- B. 公立の小学校等の教諭等の任命権者は、児童、生徒又は幼児に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対して、その能力、適性等に応じて、指導改善研修を実施しなければならないが、その終了時に、改善が不十分で、なお児童等に対する指導を適切に行うことができないと認める教諭等に対して、免職その他必要な措置を講じるものとされている。
- C. 教員は、その職の信用を傷つけ、又は教員の職全体の不名誉となるような行為をしてはならないとされているが、勤務時間外の直接職務に関係のない行為については、この限りではない。なお、信用失墜行為の禁止に反した際には、懲戒処分となることがあるが、免職の処分となることはない。
- D. 教員は、その職務を遂行するに当たって、法令、条例、地方公共団体の規則及び地方公共団体の機関の定める規程に従い、かつ、上司の職務上の命令に忠実に従わなければならないとされているが、法規の範囲を逸脱した命令については、服従する義務はない。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 39】 カリキュラムの類型に関する記述A～Dのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- A. 経験カリキュラムは、教科の枠組みを保持しながらも、学習効果の向上のため、教科間の相互関連を図ったカリキュラムであり、教科の垣根を低くして、二つ以上の教科を相互に関係付け、その学習内容に関連性をもたせていくのが特徴である。
- B. コア・カリキュラムは、学問体系に基づいた伝統的な教科の枠を廃止し、一切の教科の存在を認めず、子供が興味と目的をもった活動から成る、総合的な単元で全体が構成されるカリキュラムである。
- C. 融合カリキュラムは、関連の深いいくつかの教科を統合して、広い領域を編成するカリキュラムであり、例えば、歴史、地理、公民を社会科としたり、物理、化学、生物、地学を理科としたりすることが挙げられる。
- D. 教科カリキュラムは、教科を基礎として教育内容と学習活動を編成するカリキュラムであり、知識を体系的、効果的に教えることができる反面、子供の興味関心や特性を無視した授業展開になりやすい等の問題点が指摘されている。

- 1. A、B
- 2. A、D
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 40】 ブレーン・ストーミングに関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 学習者の自発性に基づく計画を学習者自身が企画・実行し、その過程において必要な知識・技能の獲得を図る教育方法である。例えば、総合的な学習の時間において、地域のごみ問題の解決に関して学習者が自発的に目標と計画を立て、長期間にわたり実践するものがこれに当たる。
2. 課題解決のためのアイデアを、集団の中でできるだけ多く出し合う創造技法である。アイデアを創出する際の基本的なルールとして、自由に自分の考えやアイデアを述べることや、他人の考えやアイデアについての批判や評価はしないことが求められる。
3. 他者をモデルとし、その行動を観察することによって自分に取り入れる学習方法である。例えば、暴力シーンを目撃した子供がよく似た暴力行為を行うことや、教室で一人が手を挙げると、他の子供が手を挙げるように、特定の行動が習得されたり、促進されたりする。
4. 一つの論題をめぐり、一定のルールに基づき、肯定・否定の双方に分かれて勝敗を決する討論ゲームである。学校教育でも一つのコースとして取り上げられ、また教育の技術としても応用されている。
5. 日常生活で出会う様々な問題や課題に、創造的かつ効果的に対処できる能力を獲得するための教育訓練である。例えば、「協力する」、「自己主張する」、「共感する」、「自己制御する」などの望ましい社会的行動を教えて、対人関係を改善する。

【No. 41】 次は、ソーシャルワークの理論と方法に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

- A** : G. L. エンゲルがその基本を提示した、ソーシャルワーク実践の理論枠組みである。人間の身体的健康状態、日常生活動作(ADL)の状態等に着目する視点と、精神状態、意志や意欲、嗜好等の視点、家族や親族との関係や交友関係、社会資源状況等の視点といった多面的視点から人間を包括総合的に捉えようとするものである。
- B** : クライアントや関係者との関係づくりと、その人たちとともに取り組むことへの合意づくりである。ソーシャルワークの展開過程において、インテーク面接や、ミーティング、会議などの最初に行われる。
- C** : クライアントが抱く感情の状態の一つであり、例えば、「解決のための行動をとりたい、でも、試みたことがなくて不安なので、このままでいるほうがよい」というように、変化など、ある一つの対象・出来事・状況に対して、対立する感情が同居している状態を指す。
- D** : ソーシャルワークのアセスメントを支えるツールの一つである。クライアントや家族の生活状況や社会関係を図で表すマッピングの技法で、基本的には3世代以上の家族間の人間関係を図式化したものである。

A	B	C	D
1. バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	エンゲージメント	アンビバレンス	ジェノグラム
2. バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	エンゲージメント	倫理的ジレンマ	ジェノグラム
3. バイオ・サイコ・ソーシャルモデル	モニタリング	倫理的ジレンマ	エコマップ
4. ストレングスモデル	エンゲージメント	倫理的ジレンマ	ジェノグラム
5. ストレングスモデル	モニタリング	アンビバレンス	エコマップ

【No. 42】 障害者総合支援法^{*1}に基づく就労に関する福祉サービスや、障害者雇用促進法^{*2}に基づく法定雇用率に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 就労継続支援A型とは、通常の事業所に雇用されることは困難であるが、委任契約に基づく就労が可能な障害者を対象としており、通所による就労機会を提供するとともに、一般就労に必要な知識や能力が高まった者について、一般就労への移行に向けて支援するサービスである。雇用契約を結んでいないため、最低賃金など労働関係法令は適用されない。
2. 就労継続支援B型とは、地域生活を営む上で、生活能力の維持・向上等のため、一定期間の訓練が必要な知的・精神障害者を主な対象としており、食事や家事等の日常生活能力を向上するための支援や、日常生活上の相談支援等を実施するサービスである。標準利用期間は2年間である。
3. 就労移行支援では、一般就労への移行に向けて、専門施設への入所による訓練を原則としつつ、職場探しや職場実習等によるサービスを組み合わせた支援を実施する。利用期間については、利用者ごとに2年以内で設定し、利用期間経過後の更新は認められない。
4. 就労定着支援では、就労移行支援や就労継続支援などの利用を経て一般就労へ移行した障害者で、就労に伴う環境変化により日常生活又は社会生活上の課題が生じている者であって、一般就労後6月を経過した者を対象としている。指定就労定着支援事業者は、企業や関係機関等との連絡調整を行い、月に1回以上は企業等への訪問を行うよう努めることとされている。
5. 障害者雇用促進法では、全ての事業主に、法定雇用率以上の割合で障害者を雇用する義務とともに、毎年1回、対象となる障害者雇用に関する状況を厚生労働大臣に報告する義務を定めている。民間企業における法定雇用率は国及び地方公共団体と同率であり、法定雇用率を達成できなかった場合、直ちに企業名や代表者名が公表される。

*1 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律

*2 障害者の雇用の促進等に関する法律

【No. 43】 我が国の生活保護制度に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 生活保護法において、国家責任の原理が定められており、国は、市町村及び都道府県が支弁した保護費の2分の1を負担しなければならない。また、同法では保護の補足性の原理が定められており、保護は、生活に困窮する者が、その利用し得る資産、能力その他あらゆるものを活用することを要件として行われるとされ、急迫した事由がある場合であっても、資産等の調査や処分等が必要となる。
2. 生活保護法において、基準及び程度の原則が定められており、要保護者の年齢、性別、世帯構成、所在地にかかわらず一律の保護基準が規定されている。また、申請保護の原則では、保護は、要保護者の申請に基づいて開始されるものであり、保護の実施機関は、要保護者以外の者からの申請では保護を行うことができないとされている。
3. 生活扶助は、日常生活の基本的な需要を満たすための扶助であり、原則として金銭給付される。被保護者に勤労収入があった場合は、全額が収入として認定されて基準生活費が算定される。また、居宅での生活が困難な要保護者は保護施設への入所の上、保護が行われる場合があり、生活保護法には保護施設として、救護施設、更生保護施設、医療保護施設、福祉ホーム、無料低額宿泊所の五つが定められている。
4. 社会福祉協議会は、生活保護法の目的である最低生活保障と自立の助長を達成する実施機関として設置されており、保護の実施責任を負っている。住居がなかったり、住所や居所が定まっていなかったりする場合や、その他の場合でも、保護が必要となった時点での要保護者の現在地を管轄する社会福祉協議会が保護の実施責任を負うことになる。
5. 生活保護受給者の就労による自立を促進するため、生活保護法において、就労自立給付金の支給が規定されている。また、同法において、生活困窮者自立支援制度との連携が規定され、生活保護の廃止を行う際、保護を廃止される者が生活困窮者に該当する場合は、生活困窮者自立支援制度の事業等についての情報提供等を行うよう努めることとされている。

【No. 44】 我が国における発達障害に関する法制度等についての記述A～Dのうち、妥当なもののみを全て挙げているのはどれか。

- A. 発達障害は、発達障害者支援法において、「高次脳機能障害、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常成年後に発現するものとして政令で定めるもの」と定義されている。
- B. 平成 28 年の発達障害者支援法の改正により、教育に関して、国及び地方公共団体は、発達障害児が、可能な限り発達障害児でない児童と共に教育を受けられるよう配慮しつつ、適切な教育的支援を行うこと、個別の教育支援計画の作成及び個別の指導に関する計画の作成の推進等を講じる旨が規定された。
- C. 発達障害者支援センターは、成年の発達障害者の治療を行うことを目的とした専門機関で、国が運営している。成長過程にある発達障害児は発達障害者支援センターを利用できず、その治療や療育などは、一般の医療機関及び児童相談所が実施している。
- D. 平成 5 年の障害者基本法の改正により、発達支援を行うことに関する国及び地方公共団体の責務が明らかにされ、発達障害者は障害福祉サービスの対象となった。障害者手帳については対象外のままであったが、平成 16 年の発達障害者支援法の成立により、同法で新設された療育手帳の対象となった。

- 1. A
- 2. B
- 3. A、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 45】 我が国の地域福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 地域福祉の推進のため、都道府県及び市町村は地域福祉計画を策定しなければならない旨が社会福祉法に規定されている。地域福祉計画は、高齢者の福祉、障害者の福祉、児童の福祉その他の福祉に関し、個別に取り組むべき事項を定めることとされ、これら地域福祉の主要3分野の下位計画として位置付けられている。
2. 市町村において、地域生活課題の解決に資する包括的な支援体制を整備するため、令和2年の社会福祉法改正によって重層的支援体制整備事業が創設された。同事業では、子ども・高齢者・障害者といった属性や世代を問わない包括的な支援体制を構築するため、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施することとされている。
3. 地域福祉の推進主体として活動している民生委員・児童委員は、法務大臣から委嘱され、犯罪をした者及び非行のある少年の改善更生を助けるとともに、犯罪予防のための世論の啓発、社会環境の改善及び地域住民の活動の促進に努め、個人及び公共の福祉に寄与することを使命としている。その定数は全国で5万2,500人と定められている。
4. 市町村の母子保健機能と児童福祉機能が一体となって、妊産婦や子育て世帯に対する相談支援を行い、包括的で継続的な支援を実施することを目的とした機関として児童相談所があり、その設置は市町村の努力義務である旨がこども基本法に規定されている。
5. 東日本大震災を契機に、平成28年の社会福祉法改正によって特定非営利活動法人が法制化された。また、共同募金において、災害ボランティアの支援等を行うために寄付金の一部を積み立てる「準備金」制度も、東日本大震災の影響の下、同年の同法改正で創設された。

【No. 46】 我が国の保健所の機能や役割に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 保健所は、地域保健法に基づき、都道府県や政令指定都市、中核市などに設置される公的機関であり、地域住民の健康を支える広域的・専門的・技術的拠点と位置付けられている。設置に当たっては厚生労働大臣の認可が必要であり、令和7年4月1日現在、全国で合計130か所設置されている。
2. 保健所の所長は、医師、歯科医師又は獣医師のいずれかの国家資格を有する者でなければならない旨が地域保健法に定められている。また、同法において、保健所は、歯科保健に関する事業を実施するため、歯科医師、歯科衛生士、歯科技工士及び歯科助手を配置しなければならないと定められている。
3. 保健所は、感染症対策など、第二次世界大戦後の公衆衛生行政を担ってきた歴史的経緯があり、地域保健法では、保健所が実施する事業として、「栄養の改善及び食品衛生に関する事項」、「住宅、水道、下水道、廃棄物の処理、清掃その他の環境の衛生に関する事項」並びに「感染症その他の疾病の予防に関する事項」などが定められている。
4. 地域保健法では、保健所が実施する事業として、精神保健に関する事項が定められており、その内容として、精神医療審査会の審査に関する事務、精神障害者保健福祉手帳の判定及び自立支援医療費(精神通院医療)の支給認定も含まれる。
5. 保健所は、その支所として市町村保健センターを設置することができる。市町村保健センターは保健所を補完する業務を担い、子育て支援や乳児検診など母子保健事業に特化したサービスを実施している。

【No. 47】 我が国のメンタルヘルスに関する施策や制度についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. 労働安全衛生法に基づくストレスチェックとは、ストレスに関する調査票に労働者が回答し、それを集計・分析することで、職場のストレス要因や周囲のサポートなどを調べる検査である。労働安全衛生法の改正により、平成 27 年から労働者に受検の義務が課され、その結果は、労働者の同意の有無にかかわらず、医師等と事業場の間で共有される。
2. 毎年 9 月 10 日から同月 16 日までの自殺予防週間において、自殺防止に向けた集中的な啓発活動が実施されている。厚生労働省によると、小中高生の自殺者数は、平成 27 年から令和 6 年までの 10 年間で減少傾向で推移しており、令和 6 年の小中高生の自殺者数は、統計開始以降最少となった。
3. 労働者災害補償保険の給付の一つである療養(補償)給付は、労働者が工作中や通勤途中に怪我をしたときや、仕事や通勤が原因で病気になって診療を受けたときに支給され、公共職業安定所(ハローワーク)が給付の可否を判断する。判断に当たって、精神疾患は、業務との因果関係を明らかにすることが困難であるため、当該保険の労働災害認定の対象外となっている。
4. 厚生労働省が策定した「労働者の心の健康の保持増進のための指針」では、職場におけるメンタルヘルス不調の予防が三段階に分けて示されている。一次予防とは、精神科受診等によるメンタルヘルス不調の早期発見、二次予防とは、職場内での職場復帰支援プログラムの策定、三次予防とは、職場復帰した者のセルフケアをいう。
5. 医療計画とは、各都道府県が地域の実情に応じて、当該都道府県における医療提供体制の確保を図るために策定するものである。平成 25 年度から実施された第 6 次医療計画から、従来の四大疾病である、がん、脳卒中、心筋梗塞等の心血管疾患、糖尿病に加え、新たに精神疾患を追加した五疾病に係る目標、医療連携体制及び住民への情報提供推進策を記載することとなった。

【No. 48】 我が国の福祉サービス給付に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 福祉サービス給付における措置制度とは、行政機関が、サービスの実施の要否、サービスの内容等を決定し、行政処分としてサービスを提供する仕組みである。措置制度は、長らく我が国の福祉サービスの主な提供方法とされてきたが、平成 12 年の介護保険法の施行や同年の社会福祉基礎構造改革などにより、一部の事業を除いて利用契約制度へと移行した。
2. 福祉サービス給付における利用契約制度とは、福祉サービスの利用者が事業者と対等な関係に基づきサービスを選択する仕組みである。サービス給付に当たっては、行政機関は関与せず、利用者と事業者の二者で利用を決定する。乳児院や児童心理治療施設への入所といった福祉サービスも利用契約制度が適用される。
3. 福祉サービスの利用者のうち、障害者や高齢者等の意思決定やコミュニケーションが困難な人への支援策として、成年後見制度の仕組みがある。成年後見制度とは、都道府県・指定都市社会福祉協議会が実施主体となり、生活支援員が福祉サービスの利用援助や日常生活の管理などの支援を行うものである。
4. 社会福祉事業は、第一種社会福祉事業と第二種社会福祉事業があり、第一種社会福祉事業は主に在宅サービスや通所サービスが該当し、第二種社会福祉事業は主に入所施設サービスが該当する。第一種及び第二種社会福祉事業の福祉サービスを提供できる組織は、国、地方公共団体又は社会福祉法人に限られている。
5. 児童に対する福祉サービスにおいて、保護者のない児童、虐待されている児童等を入所させて養護するための入所施設として、児童自立支援施設がある。また、児童自立支援施設退所後に就職する児童に対して、自立援助ホームにおいて相談その他の日常生活上の援助等を行う、地域移行支援がある。

【No. 49】 我が国における精神保健医療福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 精神医療における入院治療については、障害者自立支援法において診断と入院の手続きが規定されている。そのうち、医療保護入院は、都道府県知事が、自傷他害のおそれがあると通報や届出のあった者を精神保健指定医 2 名以上に診察させて、その判定結果により、本人や家族等の意思にかかわらず、指定病院への入院を決定するものである。
2. 精神医療における社会療法は、障害に対して生活機能を回復させる目的があり、医療機関におけるデイケア等が挙げられる。デイケアは、医療機関に入院している精神障害者に対して行うマンツーマンの個別による治療プログラムである。診療報酬の対象としては認められていない。
3. 精神科リハビリテーションの訓練的アプローチのうち、社会生活技能訓練(SST)では、手工芸、木工、印刷、農耕又は園芸、日常生活の動作等の作業に従事することにより、社会生活機能回復を図る。また、作業療法では、参加者は、自らの課題について他の参加者の協力を得て解決法を見だし、その解決法を実践するためのリハーサルとしてロールプレイを実施する。
4. 精神科リハビリテーションにおいては、患者の「治すべき問題」だけを捉えるのではなく、患者自身をもつ「健康的な側面」や生かし得る強みに働きかけるアサーションや、患者の主体性や自己決定力を尊重し、自己主張して生きていく力を促進するパターナリズムを理念としている。
5. 平成 16 年に厚生労働省精神保健福祉対策本部が提示した「精神保健医療福祉の改革ビジョン」において、「入院医療中心から地域生活中心へ」という基本的な方策が示された。この方策の下、様々な施策が行われ、平成 29 年からは、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けた取組が行われている。

【No. 50】 我が国の司法福祉に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 特別調整とは、矯正施設に収容されている高齢者や障害者の釈放後の生活環境を調整する制度である。矯正施設から最寄りの日本司法支援センター(法テラス)への依頼によって開始される。高齢や障害により判断能力が不十分な者もいるため、本人の希望や個人情報提供に関する同意は不要とされている。
2. 高齢者や障害者など、生きづらさを抱える被告人の再犯防止のために、各地方裁判所に社会復帰支援室が設置され、公判中から裁判官が、被告人の釈放後における帰住先の確保や福祉サービスの調整などの支援を行っている。この制度は、裁判手続からの出口という意味で「出口支援」と称されることがある。
3. 矯正施設を満期釈放されたものの、行き場のない者は、全国の保護観察所に出頭して、保護を求めることができる。この制度を更生緊急保護という。これは満期釈放者の権利であるため、保護観察所は更生保護サポートセンターへの入所を措置する義務があり、保護の期限は原則として満期釈放されてから1か月間である。
4. 家庭裁判所が扱う少年事件は、罪を犯した14歳以上20歳未満の少年の事件、14歳未満で刑法に触れる行為をした少年の事件、保護者の正当な監督に従わない性癖があるなどの事由があり、その性格や環境からみて、将来罪を犯すおそれのある18歳未満の少年の事件の三つである。
5. 『令和7年版 犯罪白書』によると、令和6年の入所受刑者に占める65歳以上の受刑者の割合は4割を超えている。このような高齢の受刑者や障害を有する受刑者の増加を背景に、令和7年6月に従来の拘禁刑が廃止され、新たに懲役刑が創設され、受刑者の特性に応じた処遇が導入された。

【No. 51】 E. フロムの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 一人一人が利益を追求する自由な経済活動が、全体として「見えざる手」に導かれ、社会の利益が増大するという自由放任主義を唱えた。
2. 孤立感と無力感に支配されたドイツ人が自由を放棄して、積極的にナチズムを支持するに至った心的なメカニズムを明らかにした。
3. 優勢となった立場の意見が人々の同調行動を増大させ、同調者の意見表明が増大する結果、劣勢な立場は沈黙を強いられて、自由を奪われる「沈黙の螺旋」モデルを提唱した。
4. 「無知のヴェール」の状態を想定し、そこで合意されると思われる正義の原理として、「平等な自由の原理」と「格差原理」を導いた。
5. 古代ギリシャ人の政治観を参考に、「活動」、「仕事」、「労働」という人間の行為形態である「活動的生活」の三つの類型について考察し、「活動」こそ人間にふさわしい自由な行為であると説いた。

【No. 52】 Z. バウマンの学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 『有閑階級の理論』において、消費が、本来の使用目的を離れて、富と社会的地位を示す競争の手段となっていることを意味する、誇示的消費の概念を示した。
2. 『リスク社会』において、階級闘争のような財や豊かさの分配をめぐる紛争が規定する産業社会から、リスク配分やリスク回避をめぐる紛争が規定するリスク社会へ転換しつつある、と述べた。
3. 『ゆたかな社会』において、企業の広告・宣伝、販売努力等によって消費者の欲望がかき立てられることと、消費者が他人と競い合って消費する結果、際限なく欲望が高まっていくことを説いた。
4. 『マクドナルド化する社会』において、グローバル化とともに、徹底したマニュアルによって効率的なサービスを行うマクドナルド方式の経営・消費文化が世界各国に広がりつつあると指摘した。
5. 『リキッド・モダニティ』において、近代化をソリッド・モダニティ(固体的な近代)からリキッド・モダニティ(流体的な近代)への変化として捉え、現代社会を特徴付ける現象としての個人化について論じた。

【No. 53】 19、20 世紀の社会理論に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. H. スпенサーは、人間精神の発達の歴史的法則について「三段階の法則」を唱えるとともに、社会は、それぞれの段階に対応して、法律的段階から軍事的段階を経て、産業的段階に移行するとした。
2. C. H. クーリーは、近代化によって、本質意志に基づいた実在的で有機的な生命体としての「ゲゼルシャフト」ではなく、選択意志に基づいた観念的で機械的な構成体としての「ゲマインシャフト」の重要性が際立つようになってきたと論じた。
3. M. ヴェーバーは、社会の変動について論じ、相互に類似した同質的な諸個人が結合した社会から、異質の機能を担う個性的な諸個人が分業に基づき相互に連携する「機械的連帯」の社会に移行するとした。
4. G. ジンメルは、諸個人の相互作用に焦点を当てた形式社会学を提唱し、社会関係を形作る人々の行為のやり取りによる関係形成を「社会化」と名付けた。
5. É. デュルケムは、プロテスタンティズムの倫理を「エートス」とする、娯楽・快楽を追求した人々が、近代資本主義社会を成立、発展させたと論じた。

【No. 54】 シカゴ学派の研究者及びその学説に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. シカゴ学派は、急速な工業化や、ヨーロッパからの資本と多数の労働者の流入による米国の産業化を背景に、シカゴ大学を拠点として、20 世紀初頭の米国社会学をけん引した。その筆頭格は、K. マルクスや、F. エンゲルスであり、量的調査を中心とした研究手法をとった。
2. E. W. バージェスは、都市は、中心業務地帯を中心に、遷移地帯、労働者居住地帯、中流階級居住地帯及び高所得者住宅地帯が同心円状に発展するという、同心円地帯理論を提唱した。
3. P. ウィリスは、同心円地帯理論を修正し、都市の土地利用の型は同心円よりも都市を中心として階層によって異なる扇形を成すとする多核心理論を説いた。
4. H. G. ブルーマーは、農村に特徴的な生活様式として「アーバニズム」を提唱し、それは、人口が少なく、密度が低く、社会的に同質の人々の集落に生じるとした。
5. T. ハーシは、非行集団に共有されている副次的文化は、米国の中産階級出身の少年達による下層階級文化に対する反動文化であるとし、これは、文化への接触と同調によって生まれるとする、非行下位文化論を説いた。

【No. 55】 次は、D. リースマンが提起した概念に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

D. リースマンは、20 世紀の米国の都市的な上層中産階級(新中間層)にみられる性格構造を と名付け、前近代社会における 、近代社会の と区別した。
 とは、出生率と死亡率が均衡する前近代社会に多くみられる性格類型で、伝統的な秩序に従って行動する傾向が強い。

それに対して人口成長と急激な社会変化が見込まれる近代社会では、 が多くみられる。彼らは、伝統の自明性に頼らず、明確な目標によって導かれて行動する人々である。リースマンは、彼らが内面に を備えていると例えた。

A	B	C	D
1. 他人指向型	伝統指向型	内部指向型	ジャイロスコープ
2. 他人指向型	内部指向型	伝統指向型	レーダー
3. 内部指向型	他人指向型	伝統指向型	ジャイロスコープ
4. 内部指向型	伝統指向型	他人指向型	レーダー
5. 伝統指向型	他人指向型	内部指向型	レーダー

【No. 56】 労働に関する学説についての記述として最も妥当なのはどれか。

1. F. W. テイラーは、ホーソン実験の結果から、職場における人間関係、仲間意識、集団規範などよりも、照明などの物理的な労働環境の方が、作業者の生産性に影響力のある要因であると結論付け、インフォーマル組織は感情のダイナミクスによって動く面が弱いことに着目した。
2. G. E. メイヨーらは、ホーソン実験を批判して、標準作業時間を定め、標準作業量を達成できた労働者には高率の出来高賃金を払い、達成できないときは低率の出来高賃金を払うといった差別出来高賃金制度を採る科学的管理法を提唱した。
3. I. イリイチは、産業社会の進展によって賃労働とともに誕生した、賃金が支払われない労働のことを「シャドウ・ワーク」と呼んだ。その典型は、家事労働である。
4. H. フォードは、企業側が多様化する消費者のニーズに応えるべく、それまでの少品種大量生産から多品種少量生産へ移行することを「技能解体」と呼んだ。
5. P. F. ラザースフェルドは、客との相互行為の際、作り笑いなど外見的な表情ではなく自己の内面に働き掛ける表層演技によって感情管理をすることを「感情労働」と呼んだ。

【No. 57】 次は、家族の類型に関する記述であるが、A～Dに当てはまるものの組合せとして最も妥当なのはどれか。

とは、一組の夫婦と未婚の子から成る家族の単位である。G. P. マードックは、 がいかなる社会にも普遍的に存在すると主張した。

とは、生み出された子どもが教育を受けて、成長していく家族のことであり、子どもに選択性がなく、親子関係を中心に展開する家族のことである。

一方、 は、夫婦が子どもを産み育てていく家族のことであり、結婚の相手、子どもの有無や数などに選択性があり、夫婦関係を中心に展開する家族のことである。

その他、 という呼称で呼ばれる、共働きで子どもがいない夫婦など、今日の家族形態や家族の概念は多様化している。

A	B	C	D
1. 核家族	生殖家族	定位家族	ステップファミリー
2. 核家族	生殖家族	定位家族	ディンクス(DINKS)
3. 核家族	定位家族	生殖家族	ディンクス(DINKS)
4. 拡大家族	定位家族	生殖家族	ステップファミリー
5. 拡大家族	生殖家族	定位家族	ディンクス(DINKS)

【No. 58】 我が国の人口に関する記述として最も妥当なのはどれか。

1. 厚生労働省の「令和 6 年(2024)人口動態統計」によると、令和 6 年の出生数は、統計を開始して以来、初めて 100 万人を下回った。また、合計特殊出生率も 1.30 となり、過去最低を記録した。都道府県別の合計特殊出生率をみると、東京都が最も高く、沖縄県が最も低くなっている。
2. 厚生労働省の「令和 6 年(2024)人口動態統計」によると、令和 6 年の死亡数は、約 67 万人となり、過去最少を記録した。令和 6 年の死亡数を死因別にみると、「肺炎」が最も多く、次いで、「老衰」、「脳血管疾患」の順となっている。
3. 厚生労働省の「国民生活基礎調査」によると、令和 6 年の平均世帯人員は、1.20 人である。また、世帯構造をみると、「単独世帯」が最も多く、次いで、「三世帯世帯」、「夫婦のみの世帯」の順となっている。
4. 総務省の「人口推計」によると、総人口に占める 75 歳以上の後期高齢者の人口の割合は、令和 6 年 10 月 1 日現在で 38.7 % となっており、令和 7 年には、第二次世界大戦直後の第 2 次ベビーブームで生まれた団塊の世代が、全て後期高齢者となっている。
5. 出入国在留管理庁の「在留外国人統計」によると、令和 6 年末現在における在留外国人数は、過去最多を記録した。国籍・地域別で在留外国人数をみると、中国が約 87 万人と最も多く、次いでベトナム、韓国、フィリピン、ネパールの順となっている。

【No. 59】 我が国における犯罪被害者等をめぐる動向等に関する記述A～Dのうち、妥当なものを挙げているのはどれか。

なお、データは『令和6年版 犯罪被害者白書』による。

- A. 令和5年中、児童ポルノ事犯の検挙を通じて新たに特定された被害児童の数は約1,400人であり、このうち約20%は小学生以下の低年齢児童である。
- B. 令和5年の刑事訴訟法改正により、逮捕手続、勾留手続、起訴状等における犯罪被害者等の個人特定事項の秘匿措置に関する規定が整備された。
- C. 犯罪被害者等を含む児童生徒の相談等は、学校においてはスクールカウンセラーに限定されるため、大学の教職課程においては、カウンセリングに関する基礎的な知識を含む教育相談の理論及び方法が、必修科目ではなく、選択科目とされている。
- D. 平成26年からは、検察庁、刑事施設、地方更生保護委員会及び保護観察所が連携して、原則として全ての事件について、犯罪被害者等に、判決確定後における加害者の受刑中の処遇状況に関する事項、仮釈放後の帰住先住所、保護観察中の処遇状況に関する事項等の情報を通知している。

- 1. A、B
- 2. A、C
- 3. B、C
- 4. B、D
- 5. C、D

【No. 60】 質的調査に関する記述ア～エのうち、妥当なもののみを挙げているのはどれか。

- ア. 質的調査では、サンプリング調査では把握が難しい、個々人の生活世界の深部に迫ることが目的であるから、調査対象者の実名を必ず公表することになっている。例えば、É. デュルケムの『自殺論』では、インタビュー調査から個々人の自殺の要因を社会学的に解明している。
- イ. 生活史法とは、手紙や日記、自分史などの記録によって内容を分析していく質的調査であり、例えば、W. I. トマスと F. ズナニエツキは、ポーランド系移民の米国社会への適応過程を解明するために、膨大な数の私的な手紙や自伝を分析し、新聞記事や裁判所記録などを調べ上げた。
- ウ. 参与観察とは、調査対象となる集団の中に調査者が実際に入り込み、日常生活を一定期間、一緒に過ごすことによって集団を内部から観察し、当事者の立場から人々の行動や対話を記録する方法である。例えば、W. F. ホワイトは、イタリア系移民の暮らす地域に住み込んでのフィールドワークに基づいて『ストリート・コーナー・ソサイエティ』を書いた。
- エ. エスノメソドロジーは、J. ハーバーマスが提唱したものであり、社会の成員(エスノ)がどのような方法(メソドロジー)で社会秩序を構成するのかを特定しようとするものである。会話分析において、「笑い」、「言い間違い」、「文法」については、社会学的現象としての分析の対象外となる。

1. ア、イ
2. ア、ウ
3. イ、ウ
4. イ、エ
5. ウ、エ

U2－2026 専門多肢

正答番号表

No	正答	No	正答	No	正答
1	4	21	1	41	1
2	5	22	3	42	4
3	5	23	2	43	5
4	1	24	4	44	2
5	1	25	2	45	2
6	1	26	1	46	3
7	3	27	4	47	5
8	4	28	2	48	1
9	4	29	5	49	5
10	3	30	2	50	4
11	2	31	3	51	2
12	5	32	2	52	5
13	2	33	4	53	4
14	5	34	2	54	2
15	3	35	1	55	1
16	1	36	1	56	3
17	2	37	3	57	3
18	1	38	4	58	5
19	3	39	5	59	1
20	2	40	2	60	3